

昭和 55 年 度
事 業 報 告 書

自 昭和55年 4 月 1 日
至 昭和56年 3 月31日

(社) 日 本 病 院 会

目 次

◎ 昭和55年度事業報告

第 1 会 議	1
第 2 陳 情	19
第 3 広 報	20
第 4 委 員 会	26
第 5 医療従事者無料職業紹介事業	37
第 6 定例研究会	38
第 7 内科臨床協議会	48
第 8 全国研究会	51
第 9 第一線リーダー研修会	68
第10 病院管理視察研究会	69
第11 病院幹部医会	70
第12 セ ミ ナ ー	72
第13 診療録管理通信教育	79
第14 メディカルクラーク通信教育	81
第15 事務長養成課程通信教育	83
第16 海外病院視察研究会	85
第17 調 査 室	86
第18 病 院 大 会	87
第19 第6回日本病院学会	89
第20 第21回人間ドック学会	92
第21 第4回日本診療録管理学会	93
第22 '80国際モダンホスピタルショウ	95
附 録 要 望 書	97
役員名簿	111
委員会委員名簿	120
会員状況	125

第 1. 会 議

総 会

第 1 回総会

5 月 17 日 (土) 東京トラック事業健保会館

- 1) 昭和54年度事業について
報告を承認
- 2) 昭和54年度収支決算の承認に関する件
原案を承認

第 2 回総会

3 月 24 日 (火) 弘済会館

- 1) 病院倫理綱領および指針に関する件
報告を承認
- 2) 病院医療危機突破全国大会開催結果に関する件
報告を承認
- 3) 会員病院数の現状に関する件
報告を承認
- 4) 昭和56年度事業計画(案)に関する件
原案を承認
- 5) 昭和56年度予算(案)に関する件
原案を承認
- 6) 昭和55年度補正予算(案)に関する件
原案を承認
- 7) 昭和56年度・57年度における役員の旅費規定の臨時措置に関する件
原案を承認

代 議 員 会

第 1 回代議員会

4 月 1 日 東京トラック事業健保会館

- 1) 代議員会議長選出の件
無競争で長浜赤十字病院長財津晃氏を選出
- 2) 代議員会副議長選出の件

無競争で河井博氏を選出

3) 監事選出の件

無競争で太田清一、戸川潔両氏を選出

4) 理事選出の件

無競争で60名の理事を選出

第2回代議員会

5月17日(土) 東京トラック事業健保会館

1) 昭和54年度事業報告について

報告を承認

2) 野呂厚生大臣列席

祝辞とあいさつ

3) 昭和54年度収支決算の承認に関する件

報告を承認

第3回代議員会

3月24日 弘済会館

1) 病院倫理綱領および指針に関する件

報告を承認

2) 病院医療危機突破全国大会開催結果に関する件

報告を承認

3) 会員病院数の現状に関する件

報告を承認

4) 昭和56年度事業計画(案)に関する件

原案を承認

5) 昭和56年度予算(案)に関する件

原案を承認

6) 昭和55年度補正予算(案)に関する件

原案を承認

7) 昭和56年度・57年度における役員の旅費規定の臨時措置に関する件

原案を承認

理 事 会

第1回理事会

4月1日 東京トラック事業健保会館

1) 理事選出の結果報告

代議員会で理事60名が無投票で、選出されたことを報告

2) 会長の選出に関する件

投票の結果、内藤景岳氏を会長に選出

3) 副会長の選出に関する件

投票の結果公的から若月俊一氏、村田勇氏、私的から河野稔氏、吉岡観八氏の4氏を副会長に選出

4) 常任理事の選出に関する件

公的は秋山博、池谷亘、諸橋芳夫、渡辺進、堀内光、三宅史郎、榎本敏雄、細川一郎の各氏8名、私的は野村秋守、大野松次、平野一弥、岡山義雄、有沢源蔵、北村行彦、榊原宏の各氏7名、計15名を選出

5) 理事会・常任理事会開催計画に関する件

次回理事会・常任理事会を4月19日に開催することを決定

第2回理事会

4月19日(土) 東京トラック事業健保会館

1) 昭和54年度事業報告に関する件

報告を承認

2) 昭和54年度収支決算報告及び監査報告に関する件

報告を承認

3) 顧問の委嘱に関する件

時期をずらして再協議することに決定

4) 第6回日本病院学会開催準備中間報告について

報告を承認

5) 医療費問題要望書に関する件

12名の委員で内容を検討することで承認

6) 病院給食について

病院給食基準米ということで米を手初めに給食事業を進めていくことで承認

第3回理事会

10月21日 弘済会館

- 1) 昭和55年度上半期事業報告について
報告を承認
- 2) 昭和55年度上半期収支報告と監査結果報告について
報告を承認
- 3) 委員会の編成について
10委員会の名称、メンバーを報告承認
- 4) 組織拡大活動について
賛助会員の組織化について広報委員会で具体案を作成することで了承
- 5) 富士見産婦人科病院除名書面審議結果について
報告を承認
- 6) 村上正敏事務局長退職書面審議結果について
報告を承認
- 7) 代議員岩宮公平氏ご逝去について
報告に対し全員で黙禱をささげた
- 8) 昭和55年度社会貢献者について
6名の受賞を報告了承
- 9) 第4回メディカルマーク認定について
51名を認定したむね報告
- 10) 第13回診療録管理士認定について
33名を認定したむね報告
- 11) 昭和56年度事業計画案の概要に関する件
担当役員は所管の事業計画案を提出することで了承
- 12) 昭和56年度予算案の概要に関する件
昭和56年度予算は2億5,000万円か2億6,000万円で組まざるを得ないことを了承
- 13) 研究会の統合案に関する件
診療録管理、事務管理、看護管理、薬事管理、放射線、臨床検査管理、情報管理の8研究会とすることで了承
- 14) 病院新聞の広告料に関する件
230万円の補正予算を組み、全理事会、代議員会、総会に上程することを承認
- 15) 手術摘出物の病理学的検査の義務化に関する件
病院倫理綱領特別委員会でさらに検討することで承認

第4回理事会

2月24日(火) 東京トラック事業健保会館

- 1) 病院倫理綱領および指針について
報告を承認
- 2) 病院情報センターの運営について
報告を承認
- 3) 三宅史郎常任理事退任について
報告を承認
- 4) 山本直輝理事のご逝去について
報告ののち全員で黙禱
- 5) 病院医療危機突破全国大会について
報告を承認
- 6) 医療従事者職業紹介事業の経過について
求人は多いが求職者が少ないとの報告を承認
- 7) 賛助会員新年賀詞交歓会開催結果について
報告を承認
- 8) '81モダンホスピタルショウについて
サブテーマを「がんのたたかい」としてマンネリ打破の運営を行なうことを報告
- 9) 各委員会、研究会、通信教育、セミナー、海外視察研究会の経過および結果報告
報告を了承
- 10) 昭和55年度第3四半期会計報告と監査報告
報告を了承
- 11) 昭和56年度全国総合研究会について
東京都5月、仙台11月、大阪2月の3回開催で承認
- 12) 昭和56年度事業計画案について
原案どおり承認
- 13) 昭和56年度および57年度における役員の旅費について
経理切りつめのため原案どおり承認
- 14) 日本病院会会議室、間仕切除去による有効利用について
原案どおり承認
- 15) 昭和56年度収支予算(案)について
原案どおり承認

16) 昭和55年度補正予算案について

原案どおり承認

17) 会員の入退会について

前回理事会以降の入退会の会員を報告、承認

18) 短期人間ドック実施指定病院について

南部郷総合病院・白井中央病院・洛和会音羽病院・済生会山口総合病院の指定を承認

常任理事会

第1回常任理事会

4月19日(土) 東京トラック事業健保会館

1) 昭和54年度事業報告に関する件

原案どおり承認

2) 昭和54年度収支決算報告及び監査報告に関する件

原案どおり承認

3) 常任理事会開催日程に関する件

第2土曜日、第4火曜日に開催することで承認

4) 役員の業務分掌に関する件

次回に再提案することになった

5) 顧問の委嘱に関する件

近いうちに再提案することになった

6) 日本病院学会評議員の推せんに関する件

東京通信病院薬剤部長永瀬一郎氏の推せんを承認

7) 愛の血液助け合い運動に関する件

提案どおり承認

8) 第3回医用機器展協賛名義貸与に関する件

提案どおり承認

9) 会員の入退会に関する件

正会員1件と賛助会員6件の入会、正会員6件と賛助会員7件の退会を承認

10) 短期人間ドック実施病院の承認に関する件

1件を承認

11) 自動化健診施設認定に関する件

4件を承認

第2回常任理事会

5月10日(土) 日本病院会会議室

- 1) 各種委員会の統廃合に関する件
15委員会に再編成することで承認
- 2) 役員の業務分掌に関する件
原案どおり承認
- 3) 組織内部規程の整備に関する件
至急整備していくことで承認
- 4) 常任理事会の開催日程に関する件
第2週の土曜日、第4週の火曜日に開催することで承認
- 5) 病院規格米に関する件
原案どおり承認
- 6) 第32回保健文化賞候補者の推せんに関する件
原案どおり日病の人間ドックを推せんすることで承認
- 7) 日本顕彰会社会貢献表彰候補者の推せんに関する件
人選は会長、副会長に一任することで承認
- 8) 会員の入退会に関する件
正会員2件、賛助会員3件の入会と正会員7件、賛助会員2件の退会を承認
- 9) 健保法・診療報酬改定に関する要望書提出について
4月24日全理事会終了後検討した要望書を関係方面に提出したむねの報告を承認

第3回常任理事会

5月20日 日本病院会会議室

- 1) 今期・本年度重要政策の検討に関する件
引き続き検討することで承認
- 2) 委員会の再編成に関する件
原案どおり承認
- 3) 移動常任理事会開催日程に関する件
原案どおり承認
- 4) 日本病院学会評議員の異動に関する件
下記6氏を推せんすることを承認
 - ① 名誉評議員 左奈田 幸夫
 - ② 評議員 池谷 亘、榎本 敏雄、北村 行彦、榊原 宏、西岡 清春

- 5) '80病院設備展に対する協賛名義貸与に関する件
原案どおり使用許可で承認
- 6) 日本病院会政治連盟の活動報告と運営について
説明どおり承認
- 7) 会員の入退会に関する件
入会賛助会員 3件と退会正会員 3件、賛助会員 1件を承認

第4回常任理事会

6月5日(木) 富山市、金茶寮

- 1) 第7回、第8回日本病院学会開催について
第7回については開催県兵庫県の役員に一任し、第8回については東京都の役員に一任することで承認
- 2) 世界救ライ推進協議会への補助金申請に関する件
申請計画について原案どおり承認
- 3) ㈱日本病院共済会の事務室割当てに関する件
部屋割の変更をすることで承認
- 4) 日本病院会雑誌及び病院学の合併について
両誌の合併について承認
- 5) 第6回日本病院学会運営に関する件
提案どおり承認
- 6) 日本病院学会評議員推せんに関する件
神戸市立中央市民病院長浅野定氏の推せんを承認
- 7) 会員の入退会に関する件
正会員 4件、賛助会員 2件の入会と正会員 1件の退会を承認
- 8) 内部諸規定について
原案を検討し、再度協議することになった。
- 9) 業務監査の実施について
提案どおり承認
- 10) 病院幹部医会設立総会について
設立経過について報告

第5回常任理事会

6月24日(火) 日本病院会会議室

- 1) 委員会委員の委嘱に関する件

教育、通信教育、学術、広報、社会保険、医療経済の6委員会委員委嘱を承認

2) 内部諸規定に関する件

提案どおり承認

3) 病院倫理綱領作成に関する件

会長から吉岡委員長に諮問

4) 全国研究会開催計画の一部変更に関する件

統合すべきものがあれば教育委員会の議をへて再協議することになった

5) 病院幹部医会規約に関する件

入会について院長の同意を得るとすることで承認

6) 第20回国際病院学会の人件費及び剰余金の繰入れに関する件

人件費の既払分は一般会計に繰入れたのち基本財産特別会計に、剰余金についてはIHF国際交流基金に繰入れることで承認

7) 会員の入退会に関する件

正会員4件の入会と賛助会員2件の退会を承認

8) 短期人間ドック実施病院の指定に関する件

有次総合病院の指定を承認

9) 事務局職員の異動に関する件

鳥居孝永の退職と福永弾丸の企画調整本部審査部長兼任を承認

第6回常任理事会

7月12日(土) 日本病院会会議室

1) 委員会委員の委嘱に関する件

臨床予防医学委員会、情報センター委員会の委員委嘱を承認

2) 顧問委嘱に関する書面審理の実施に関する件

左奈田幸夫、小野田敏郎、神崎三益、東陽一各氏の顧問委嘱につき理事会、代議員会へ書面審理に付することを承認

3) 病院診療報酬即時改定全国大会への賛助に関する件

会長代理として岡山常任理事が出席、祝辞を述べることを承認

4) 会員の入退会に関する件

正会員6件の入会と正会員4件、賛助会員1件の退会を承認

5) 昭和55年度社会貢献表彰候補者の推せんについて

日本顕彰会あて医師3名、看護婦5名を推せんしたことを承認

6) 短期人間ドック実施病院の指定に関する件

鳴海病院の指定を承認

第7回常任理事会

7月22日(火) 日本病院会会議室

1) 昭和56年度病院税制改善要望事項に関する件

国税の所得税・法人税関係9項目、相続税2項目、地方税の事業税・固定資産税3項目、医療法関係2項目の要望書を大蔵省に提出を承認

2) 昭和55年度全国研究会セミナーの開催計画変更に関する件

7全国研究会と1セミナーの開催計画の変更を承認

3) 診療録管理料新設の要望

原案どおりの要望書を提出することで承認

4) ファクシミリ導入に関する件

基本的な適用業務の計画と事務システムの改善計画をさらに明確にしたうえで再度協議することで承認

5) 会員の入退会に関する件

賛助会員2件の入会承認

6) 短期人間ドックの指定に関する件

新潟こばり病院の指定を承認

7) 第1四半期会計監査結果について

帳簿、資産ともに正確に管理されているむね報告

8) 事務局人事異動について

淵ノ上武之を業務第二課長に、夏目登を総務課長代理に異動発令したむね報告

9) 事務長養成課程通信教育第1回認定式開催結果について

13名に認定書が授与されたむね報告

第8回常任理事会

8月19日(火) 日本病院会会議室

1) 内部諸規定の制定に関する件

委員会の設置及び運営に関する規定案について施行細則の条文に若干の修正がなされたが、原案どおり承認

2) 日本登録衛生所協会からの営業適正指導普及月間に対する協賛名義使用依頼に関する件

協賛名義の使用を承認

3) 委員会委員の追加に関する件

医療経済委員会委員に深瀬邦雄、臨床予防医学委員会委員に榎本敏雄、社会保険委員会委員に有沢源蔵の3氏を追加委嘱することを承認

- 4) 中国からの研修医師受入れに関する件
案をさらに詰めて常任理事会で再度諮ることで承認
- 5) 全国研究会・セミナーの日程変更に関する件
提案どおり日程変更を承認
- 6) 感謝状および記念品に関する件
日本病院会発足以降の日本病院学会会長ならびに日本診療録管理学会会長、人間ドック学会長をつとめた方には時期をみて陶器を贈ることになった。
- 7) 会員の入退会に関する件
賛助会員2件の入会と正会員1件の退会を承認
- 8) 短期人間ドック指定に関する件
済生会兵庫県病院の指定を承認
- 9) 自動化健診施設認定に関する件
広島協栄健康管理センターの認定を承認
- 10) 顧問委嘱の書面審理結果について
神崎、東、左奈田、小野田の4氏を顧問に委嘱することを承認
- 11) 日本病院団体連合会の設立について
病院基準米の普及と差額補償予算化の陳情のため不特定多数の病院が一致して推進していることを裏付けるため各病院団体を統合して特定陳情団体として日本病院団体連合会をつくったむね報告あり、了承
- 12) 第6回日本病院学会決算報告について
収入32,920,467円、支出32,410,467円で510,000円が次期へ繰越しとなったむね報告、了承
- 13) 第4回日本診療録管理学会決算報告について
収入4,998,852円、支出4,998,852円で差引ゼロであったむね報告、了承
- 14) 海外病院医療視察研修旅行結果について
中国病院医療視察、パリ・ヨーロッパ病院医療視察、米国看護事情視察の結果を報告、了承
- 15) 日本看護学校協議会総会結果報告
総会の結果報告とともに日病との関係についてあらためて討議することになった。
- 16) 社会保険委員会開催結果について

これからは点数改正、医療費問題、健保法を3つの柱にして活動していくと報告、了承

17) 広報委員会開催結果について

各研究会の部門ごとに案外知られていない盲点のような記事を3年間のシリーズで掲載することにしたむね報告、了承

第9回常任理事会

9月6日(土) 佐久総合病院

1) 下半期の役員会など開催計画に関する件

提案どおり承認

2) 研究会・セミナーの統合に関する件

22部会研究会を一部統合することを教育委員会で検討、案を次回常任理事会に提出することで承認

3) (財)日本建築防災協会特別維持会員への入会に関する件

入会を承認

4) '80情報処理連合展の後援名義の使用承認申請に関する件

後援名義使用を承認

5) 病院新聞への広告料について

補正予算に盛り込んで総会にはかることを承認

6) 会員の入退会に関する件

正会員5件、賛助会員2件の入会を承認

7) 病院管理委員会委員の追加に関する件

岡山義雄委員の追加を承認

8) 第21回人間ドック学会開催結果について

二本杉学会長のもと、参加者約200名で開催したむね報告、了承した

第10回(緊急)常任理事会

9月26日(金) 日本病院会会議室

1) 医療法人芙蓉会富士見産婦人科病院に関する件

同病院が社会の大問題となっているのは誠に遺憾であり、定款第9条に違反しており、除名すべきであるとの結論に達した

2) 事務局長退職に関する件

村上正敏事務局長の退職を承認

第11回常任理事会

10月11日 日本病院会会議室

- 1) 北野早苗事件により本会が受けている影響と対策について
前回の緊急常任理事会において富士見産婦人科病院を除名することが議決されたので、9月26日付で全理事、全代議員に書面審議に付したと報告、了承
- 2) 看護学校協議会の取扱いについて
公益法人としての運営上問題があるので、今後検討することで承認
- 3) 職業紹介事業の運営について
同事業は実績次第によっては認可取消しのおそれもあるため、なお多くの協力が必要であることで承認された
- 4) 役員の旅費規定について
役員が役員会外の公務で出張したときの旅費をどうするか規定を検討することとなった
- 5) 病院新聞社への広告料支払いについて
補正予算を組むことで検討することになった
- 6) 診療録管理通信教育などの受講料改定について
受講料年間5万4千円とし、56年1月の新規募集分から値上げすることで承認
- 7) 健康保険法などの一部改正案の答申について
社会保険委員会の答申を承認
- 8) 源泉税について国税庁と協議するについて
パート医師の税金問題について医療経済委員会で検討することになった
- 9) 病院診療報酬改定促進全国請願運動について
全国公私病院連盟から協力方を依頼してきているので、本会も独自に請願運動を開始して協力することを承認
- 10) ハルビン医科大学からの研修医派遣依頼について
ハルビン医科大学から日本の病院へ研修に医師を派遣したいとの要望に対し、受入れ後の対策を検討することになった
- 11) 病院情報センター開設について
補助金75万円をもって本日付で発足することを承認
- 12) 会員の入退会について
正会員2件、賛助会員3件の入会が承認された
- 13) 富士見産婦人科病院の理事、代議員への除名書面審議について
9月26日賛成大多数で承認されたことを報告
- 14) 第2四半期会計報告および監査報告について
上半期収入合計は186,936,566円、支出合計は122,336,499円であると報告

15) 昭和55年度社会貢献者決定について

野村秋守(野村病院)、平野明(共立会病院)、金清次(九十九里ホーム病院)、北田豊子(南大阪病院)、石川咲子(国保旭中央病院)、前原清香(山本病院)の6氏が受賞したと報告

第12回常任理事会

11月8日 日本病院会会議室

1) 昭和56年度事業計画作成について

会費の値上げがむつかしい以上、事業の均衡を保つため、研究会の統合について教育委員会の結論をまって検討することになった

2) 全国公私病院連盟の「病院危機突破全国大会」への協賛について

協賛でお祝い金を届けることを承認

3) 榭日本病院共済会の医療事故対策講座に対する後援について

後援を承認

4) 定款「常任理事会の運営細則」について

内容は会長一任となった

5) 会員の入退会について

正会員2件の入会と正会員1件の退会と賛助会員2件の退会を承認

6) 短期人間ドック病院の指定について

済生会山口総合病院の指定を承認

7) 日医の、医療法人の理事長は医師に限るべきであるという見解について

医療制度委員会において検討してもらいよう会長から諮問を行なうことで承認

8) 日本病院会政治連盟委員会の開催結果について

11月1日の政治連盟委員会では北野問題のあおりで存廃、改組問題も出たが、結局この事件を契機に脱皮をはかってゆくことで意見の一致をみたと報告

第13回常任理事会

11月18日(火) 日本病院会会議室

1) 昭和56年度予算要求提出締切に関する件

昭和56年度の予算要求を締め切ったのでこれに基づいて予算原案を作成することを承認

2) 昭和56年度事業計画案作成について

全国研究会は次年度1年間原則として、すべて中止する。セミナーは病院長セミナー、事務長セミナー、総婦長セミナーの3つだけを残すことで了承

3) 会員の入退会に関する件

正会員1件、賛助会員1件の入会と正会員3件、賛助会員2件の退会を承認

3) 短期人間ドック実施病院の指定について

白井中央病院の指定について承認

第14回定例理事会

12月13日(土) 日本病院会会議室

1) 昭和56年度研究会、セミナーの休止について

全国研究会を昭和56年度休止することにしたが、代替案として年3回位の開催は如何かとの意見が出された。会長から東京都、大阪市、仙台市で3回開催したさいの経費一覧表を提示するよう事務局に要求した

2) 81モダンホスピタルショウの共催依頼について

今回は従来どおりの共催による運営を行ない、その結果をみてあらためて考えることで承認

3) 昭和55年度研究会の開催月日変更について

医事紛争セミナーを神戸市で56年2月19日～20日に変更開催することを承認

4) 病院倫理綱領特別委員会の答申について

5原則からなる案を提示、承認

5) 昭和56年度および57年度における役員旅費規定の臨時措置について

参与を除く、理事、代議員、顧問に限りグリーンを中止する、日当は支給しないと決議

6) 三宅常任理事栄転について

三宅史郎常任理事(国立甲府病院長)が11月30日付で日大医学部教授に栄転したので理事退任届が出され、承認

7) 会員の入退会について

正会員3件の入会と正会員1件の退会、賛助会員2件の退会を承認

8) 退会保留病院の取扱いについて

引き続き退会保留病院として取扱うことで承認

9) 短期人間ドック指定について

南部郷総合病院の指定を承認

第15回常任理事会

12月23日(火) 日本病院会会議室

1) 昭和56年度収支予算案について

昭和55年度収支予算259,700,000円に対し56年度は250,500,000円となるむね報告、次回までに検討することで承認

2) 臨床検査月間に関する協賛名義の使用依頼について

協賛名義の使用を承認

3) 会員の入退会について

正会員 1 件、賛助会員 2 件の入会と賛助会員 2 件の退会を承認

4) 医療課税について

休日、夜間急患センター等の休日、夜間診療の謝金、および救急医療に関して国、地方公共団体から交付される補助金は、開業医が出向いてセンター等から受ける謝金には給与所得控除を適用する、補助金の対象となった救急医療の経費は必要経費として控除する等報告された。

第 16 回常任理事会

1 月 10 日 日本病院会会議室

1) 委員会開催結果について

国際委員会、教育委員会の開催結果について報告

2) 賛助会員新年賀詞交歓会について

1 月 20 日東京アメリカンクラブで開催するむね報告

3) 昭和 56 年度一般会計収支予算第 1 次修正案について

収支 2 億 5,050 万円の案が提示された

4) 昭和 55 年度一般会計および特別会計補正予算案について

次回へ持越しとなった

5) 役員人事について

三宅常任理事退任後の補充については今後検討することになった

6) 「米国における病院情報システム実情調査団」後援依頼について

後援を承認

7) 海外医療視察研究会の支出予算について

案内の印刷発送は業者にやらせ、予算支出を切りつめることになった

8) 会員の入退会について

正会員 1 件、賛助会員 1 件の退会を承認

第 17 回常任理事会

1 月 20 日 東京アメリカンクラブ

1) 昭和 56 年度事業計画案作成について

次回に再検討することになった

2) 昭和 56 年度一般会計収支予算第 2 次修正案について

次回に再検討することになった

3) 病院大会について

2月17日開催することに決定

4) 会員の入退会について

正会員1件の退会を承認

第18回常任理事会

2月10日 総合病院長浜赤十字病院

1) 第3四半期の会計報告および監査報告について

報告を承認

2) 昭和56年度事業計画案について

原案どおり承認

3) 昭和56年度収支予算案について

原案どおり承認

4) 昭和55年度補正予算案について

原案どおり承認

5) 病院医療危機突破全国大会について

提案どおり承認

6) 会員の入退会について

正会員1件、賛助会員1件の入会と正会員4件、賛助会員2件の退会を承認

第19回常任理事会

3月14日 日本病院会

1) 医療法の改正案について

慎重に対処することとし、医療制度委員会への諮問を承認

2) 日本登録衛生検査所協会の要望事項決議について

同協会の決議を了とし協力することで承認

3) 昭和56年度税制改正について

エネルギー対策促進税制の適用範囲に医療業が含まれることになったと報告

4) '81 オフィス・オートメーション・シンポジウム共催名義使用願いについて

共催名義使用を承認

5) 日本エム・イー学会主催のM E技術講習会および第2種M E技術実力検定試験実施協賛依頼について

協賛を承認

- 6) 日本海外研究センター主催海外医療制度病院管理視察研究旅行について
本会でも独自の視察団を計画することで承認
- 7) 昭和56年度役員会開催月日案について
原案どおり承認
- 8) 昭和57年度日本病院学会（東京都）の計画について
学会長に東京慈恵会医科大学付属病院長丸毛英二氏を委嘱することで承認
- 9) 事務局長の任免について
上畑邦朝氏を任用することで承認
- 10) I H F 常任理事の後任について
4副会長のうちから選ぶことで承認
- 11) 渡辺進常任理事の退任について
辞任を承認
- 12) 会員の入退会について
賛助会員1件の入会と正会員2件の退会を承認

第2. 陳 情

1. 4月24日 政府が今国会に提出している健康保険法の一部改正案ならびに診療報酬改定の早期実現について4月19日の全理事会の意向をまとめ、厚生大臣等に要望した（要望書の内容は巻末に附録として掲載、以下同じ）
2. 7月24日 診療録管理体制の近代化のため診療録管理科新設の要望を厚生大臣等に提出した。
3. 7月25日 国税、地方税関係の昭和56年度税制改正要望事項をまとめ、厚生大臣等に提出した。
4. 2月17日 病院医療危機突破全国大会において医療費大幅引上げの即時実施等が決議され、その決議文をもって代表が厚生省等に陳情した。
5. 2月17日 病院診療報酬の改定促進の請願活動を全会員に呼びかけていたが、これを取りまとめて厚生省等に提出した。
6. 2月20日 省エネルギー設備投資税額控除制度における業種指定に医療保健業を含めてほしいとの要望書を大蔵大臣等に提出した。
7. 3月24日 医療法の一部改正案につき都道府県医療計画の作成および医療法人の指導監督規定についての要望書を厚生大臣に提出した。
8. 3月31日 3月24日開催の定時代議員会、総会で診療報酬の15%引上げ等の要望の決議がなされたので、決議文を厚生大臣に提出した。

第3. 広 報

日本病院会ニュース

号数	発行日	主 な 記 事 内 容
第171号	4月10日	1) 新役員互選さる — 会長に内藤景岳氏 2) 第21回人間ドック学会開催要項決まる 3) 第4回日本診療録管理学会プログラム
第172号	4月25日	1) 第6回日本病院学会全プログラム決まる — 200越す一般演題
第173号	5月10日	1) 医療原価を補償せよ — 健保法で厚相に要望書 2) 会長就任のご挨拶 — 本会会長内藤景岳 3) 昭和51年5月中医協医療経済実態調査(マイクロ調査)の概況 4) 正・副会長ら新役員関係団体を歴訪 5) 社会のフレッシュマンへ — 副会長河野稔 6) '80国際モダンホスピタルショウ開幕へ
第174号	5月25日	1) 代議員会・総会開かる — 54年度決算を承認 2) 厚生省栄養所要量改定に伴い基準給食で通知 3) ホスピタルショウ終わる — 80年代医療へ確かな足跡 4) 六職種のあるべき姿 — 医療従事者対策委が報告 5) 救急看護の方向 — 大阪府立千里救急センター所長太田宗夫
第175号	6月25日	1) 第6回日本病院学会開く — 80年代医療へ第一歩 2) 第4回日本診療録管理学会開く — 普及へ一層の拍車 3) 第21回人間ドック学会を開催するにあたって — 学会長二本杉皎 4) 第6回日本病院学会特集 5) 第4回日本診療録管理学会特集 6) 病院のあるべき姿に対する形づくり — 病院制度委員長渡辺茂夫
第176号	7月10日	1) 第21回人間ドック学会開幕へ — 老令化社会への対応めざし 2) 税制改正要望案まとむ — 医療経済委員会 3) 第21回人間ドック学会プログラム

- 4) 病院幹部医会設立さる — 期待されるヨコの連携
- 5) 厚生省政管健保と国保で医療費の通知を指示
- 6) ホスピタルショウ観覧記

- 第 177 号 7 月 25 日
- 1) 診療録管理料の新設を厚生大臣に要望
 - 2) 第 5 回日本診療録管理学会長をお引受けして — 澤崎博次
 - 3) 厚相に斎藤邦吉氏
 - 4) 衆院社労委員長に山下徳夫氏
 - 5) モリディブの子らにお米を — 友情の環広げる一円玉募金
 - 6) 目的を明確に区分 — 海外視察で来年度基本方針
 - 7) 第 4 回日本診療録管理学会に参加して
 - 8) お世話を終えて — 第 4 回日本診療録管理学会幹事長木村明

- 第 178 号 8 月 10 日
- 1) 第 7 回日本病院学会長をお引受けして — 浅野定
 - 2) 村田学会長に感謝 — 日本病院会顧問阿久津慎
 - 3) はだしの座長 — 富山県立中央病院長村田勇
 - 4) 衆参両院議員選挙当選祝賀会に72名の議員が出席
 - 5) 事務長養成課程通信教育で第 1 回生13名が卒業
 - 6) 病院診療報酬即時改定全国大会祝辞 — 常任理事岡山義雄
 - 7) 第 6 回日本病院学会に参加して — 杏林大学医学部教授高橋政祺
 - 8) 新刊書案内「ベストは今も生きている」

- 第 179 号 8 月 25 日
- 1) 第 21 回人間ドック学会開く — ビロブチンの使用中止検査の質追求の中で踏切る
 - 2) 次期人間ドック学会長に櫻田良精氏
 - 3) 厚生省障害者福祉対策を目安に56年度概算要求まとむ
 - 4) 経営悪化基調は変わらず — 4 月の病院経営収支調査月報まとまる
 - 5) 医療機関の地域化とプライマリヘルスケアの医学教育について(前)
— 地域医療委員長若月俊一
 - 6) 第 6 回日本病院学会に参加して — 新千里病院長吉岡観八
 - 7) 第 6 回日本病院学会に参加して — 北品川総合病院長河野稔

- 第 180 号 9 月 25 日
- 1) 病院倫理の高揚について — 会長内藤景岳
 - 2) 職業紹介事業本格活動へ — 独立して運営を強化

- 3) 薬理作用を重視する方向で — 厚生省支払基金へ通知
- 4) 厚生省耐用年数の短縮など56年税制改正で意見提出
- 5) 医療機関の地域化とプライマリヘルスケアの医学教育について(後)
— 地域医療委員長若月俊一
- 6) 日本病院会政治連盟雑感 — 和歌浦中央病院長遠藤香苗
- 7) 第6回日本病院学会に参加して — ①東京警察病院薬剤部長古川正、
②東京都済生会中央病院技師長坂内英明

- 第 181 号 10月10日
- 1) 北野早苗氏のことについて — 副会長吉岡観八
 - 2) 四面楚歌の中で — 常任理事野村秋守
 - 3) これからの日病ニュース — 広報委員長高山瑩
 - 4) 日本製薬工業協会資料・試用医薬品(医療用)に関する管理基準
 - 5) サンプルの規制について — 東京通信病院薬剤部長永瀬一郎
 - 6) 80年代の看護を考える — 聖路加国際病院総婦長内田郷子
 - 7) 病院給食と食塩10グラム — 東京都立神経病院栄養科長馬場昂
 - 8) 利用しやすくなった医療金融公庫融資

- 第 182 号 10月25日
- 1) 手術の適否に正しい判断を — 手術摘出物の病理学的検査について病院
倫理綱領特別委が提言
 - 2) 第22回人間ドック学会長をお引受けして — 櫻田良精
 - 3) 第21回人間ドック学会の印象 — 東京警察病院内科部長鈴木豊明
 - 4) 第21回人間ドック学会に参加して — 牧田総合病院副院長笹森典雄
 - 5) 民間病院経営雑考 — 医療法人愛仁会本部事務局長下間幸雄
 - 6) 放射線医療部門とロボット — 都立墨東病院技師長妹尾昭一
 - 7) 無資格医療に一言 — 駿河台日大病院検査部長佐藤和身
 - 8) お世話を終えて — 第21回人間ドック学会幹事長寺田由起夫

- 第 183 号 11月10日
- 1) 医療経済の論理と福祉への狭き門 — 副会長村田勇
 - 2) 病人にうまい米を — 基準米の普及で支援
 - 3) 社会保険委員会健保法改正で答申
 - 4) 健保改正案参院へ
 - 5) 栄養指導を考える — 聖路加国際病院栄養科長宇井美代子
 - 6) 高令者の療養環境 — 東京警察病院総婦長嶋崎佐智子

- 7) 麻薬の不幸と管理 — 東京警察病院薬剤部長古川正
- 8) 管理者の自己点検 — 医療法人愛仁会本部事務局長下間幸雄
- 9) 新刊書案内「病医院の税務」

- 第 184 号 11月25日
- 1) 医療費改定へ歩をあわせ — 公私病連主催の病院大会で大野代表があいさつ
 - 2) 病院組織と人間関係(前) — 副会長河野稔
 - 3) 放射線医療部門とロボット(その2) — 都立墨東病院技師長・妹尾昭一
 - 4) 臨床検査技師の教育について — 昭和大学医学部付属病院技師長平沢政人
 - 5) 病院長セミナー終わる
 - 6) 海外視察のコーディネーターを募集

- 第 185 号 12月10日
- 1) 病院倫理綱領答申さる — 病院人の行動基準として会員病院内に掲示
 - 2) 病院組織と人間関係(後) — 副会長河野稔
 - 3) 安全ということ — 東京日立病院総婦長木村千枝子
 - 4) 病院給食と母乳供給 — 北里大学病院栄養科主任岡田明美
 - 5) 医薬品の汚染と防止 — 同愛記念病院薬剤科八木下将也
 - 6) 医療不信の嵐の中で — 牧病院長牧安孝
 - 7) 干維漢氏を囲んで関係者同窓生が懇親会

- 第 186 号 1月10日
- 1) 年頭所感 — 会長内藤景岳
 - 2) プライマリーヘルス・ケアと医の倫理 — 副会長吉岡観八
 - 3) 新年のごあいさつ — ①厚生大臣園田直、②厚生省医務局長田中明夫、③厚生省保険局長大和田潔
 - 4) 1981 年年頭所感 — 代議会議長財津晃
 - 5) 医療と生理学的検査制度と倫理について — 顧問左奈田幸夫
 - 6) 行事食(クリスマスと正月料理について) — 東京衛生病院栄養科主任米山貞治

- 第 187 号 1月25日
- 1) 地域に根ざす努力を — 副会長若月俊一
 - 2) 和歌山県支部が第二回総会 — 地方の要望実現へ
 - 3) 13年目を迎えた放射線研究会 — 聖路加国際病院長野辺地篤郎

- 4) 米国にある医療士とは — 国立病院医療センター臨床検査技師長星野辰雄
- 5) こんなことはどうでしょうか — 日本病院学会への提案
- 6) 新春座談会・医療不信を取り除くために — ①内藤景岳 ②吉岡観八
③野村秋守 ④大野松次 ⑤榎本敏雄 ⑥高山瑩 ⑦行天良雄

- 第 188 号 2月10日
- 1) 中医協医療費本格的な論議開始へ — 諮問求める上申書日医委員が厚相などに提出
 - 2) 賛助会員との賀詞交換会開く
 - 3) 差額ベッド約1%の減少 — 厚生省55年調査まとめる
 - 4) グルタチオン錠など13品目保険局、使用継続を通知
 - 5) 科学的善悪の彼岸 — 副会長村田勇
 - 6) 課題多い薬事管理 — 国立東京第二病院薬剤科長吉本与一
 - 7) 救急外来と当直婦長 — 永寿総合病院総婦長阿部美津子
 - 8) 嗜好調査に思うこと — 順天堂大学医学部付属順天堂医院栄養部主任小山正博
 - 9) 明窓浄机 — 大蔵省印刷局東京病院薬局長加藤勲

- 第 189 号 2月25日
- 1) 病院医療危機突破全国大会開かる — 入院料の引上げなど決議
 - 2) 81年代を開く日本人の勤労感(前) — 副会長河野稔
 - 3) 省エネ投資減税で要望実現の見込み — 医療保健業を指定業種に
 - 4) 病院医療危機突破全国大会病院人800名が参集
 - 5) 武見日医会長挨拶
 - 6) 54年度病院概況調査まとまる — 収益対費用も集計
 - 7) 第5回日本診療録管理学会実施大綱決まる
 - 8) 経済管理の必要性 — 東京都済生会中央病院技師長坂内英明
 - 9) 医道高揚に当たっての反省と所感(その1) — 牧病院長牧安孝
 - 10) 入院サービスと付添い — 関東通信病院総婦長宮原仮江
 - 11) 56年度の学会案内
 - 12) 病院概況報告頒布のお知らせ

- 第 190 号 3月10日
- 1) 病院倫理綱領指針答申さる — 全ての病院人はこれを体せよ
 - 2) 人間ドック学会参加者募集 — 特別講演など決まる

- 3) 再出航した政治連盟 — 新しい革袋には新しい酒を
- 4) 81年代を開く日本人の勤労感(後) — 副会長河野稔
- 5) 第5回日本診療録管理学会一般演題など募集
- 6) 小児調剤の問題点 — 国立小児病院薬剤科長菅山修二
- 7) 行き詰まる栄養指導 — 関越病院栄養科コンサルタント下房子
- 8) 診療報酬改訂で日医基本方針示す
- 9) 医道高揚に当たっての反省と所感(その2) — 牧病院長牧安孝

第191号 3月25日

- 1) 代議員会・総会開かれる — 昭和56年度事業計画と予算を承認
- 2) 薬価改定にのぞむこと — 大森赤十字病院薬剤部長垣花満
- 3) 診療報酬と医療原価(その1) — 副会長河野稔
- 4) 医療法の一部改正諮問される
- 5) 喘息患者のお気に入り — 武蔵野赤十字病院婦長中原久江
- 6) 研究会反省会開く
- 7) 医道高揚に当たっての所感(その3) — 牧病院長牧安孝
- 8) I H F コングレス案内

第4. 委員会

1. 教育委員会

1. 開催回数 6回（内研究会委員長会議3回）
2. 延出席者数 87名（内研究会委員長会議67名）
3. 協議項目
 - 1) 研究会の統合について
 - 2) 全国研究会、セミナーの一部休止に伴う代替案について
 - 3) 全国総合研究会について
 - 4) 定例研究会について
4. 総 評

昭和55年度は全国研究会27回、セミナー12回、定例研究会68回、を実施したが、参加者数の減少等が問題となり、昭和56年度全国研究会・セミナーを一部休止することが決定され、教育委員会・研究会委員長会議を開催し、昭和56年度に限り、全国総合研究会（年間4回）を開催することが決定された。

2. 臨床予防医学委員会

1. 開催回数 3回（在京小委員会2回を含む）
2. 延出席者数 25名
3. 協議項目
 - 1) 新委員披露について
静岡厚生病院長榎本敏雄氏日病常任理事会で推挙され、本委員会委員就任。
 - 2) 第23回人間ドック学会長内定の件について
青森県立中央病院長大内清太氏に第23回人間ドック学会長を依頼したところ内諾あり。
 - 3) 人間ドック現況報告について
短期人間ドック（一泊二日）健保連との契約受診者数は健診料（現55,000円）から、より廉価の自動化健診（3時間ドック）等に向う傾向にあり、今後健診料値上については注意を要する。
 - 4) 人間ドック学会の参加資格について
現人間ドック学会会則より参加資格は日病正会員に限定されているから、全国的規模で見た場合ドック実施病院過半数の不参加となる。その対策如何。
 - 5) 胆のう造影剤ピロブチン6錠服用禁止の件について

短期人間ドック指定病院長に対し、上記ビロブチン服用は全面的に禁止、胆のう検査はエコーが望ましいが、全指定病院がエコー装置を整えるまでは、腹部単純レントゲン撮影を行うこととする。

6) 指定病院の現状チェックについて

短期人間ドック指定内規変更により、旧指定内規による指定済み病院で、新指定内規に著しくもとの病院があれば善処を求めることとなった。

4. 総 評

1) 胆のう造影剤ビロブチン服用禁止については、アンケートの結果少々の異論もあったが、結局委員会としては常識的大勢の服用禁止に従うこととしたものである。

2) 56年度短期人間ドック健診料（一泊二日）は55年度と同額 55,000 円とすることとなった。これについては中には、不満の指定病院もあることながら、諸般の事情を勘案の上、ご諒承頂くこととした。

3. 医療制度委員会

1. 開催回数 4回

2. 延出席者数 30名

3. 協議項目

1) 医療法人の理事長を医師に限定することの可否について。

2) (イ) 看護学生等から看護実習病院が実習料を定額徴収することについて。

(ロ) 看護学校卒業者が国立病院へ就職する場合は、養成費の一部を国立病院から当該学校へ申受けることについて。

3) 医療法の改正について（地域医療計画他）

4. 総 評

上記1)の医師に限定することは、(イ)実情にそわず無理、(ロ)憲法上の職業選択の自由を拘束することとなる、(ハ)日見解も流動的である、などにより、自ら進んで見解公表をすべきではなく統一意見として考慮いたす程度がベターであると注意喚起をうながしながら、1)の結論は限定せずとも良識ある人であれば可としたが、更に検討の結果、医療法人の指導監督規定についてとして、現行法に問題があることは否めないところではあるが、制度改正に慎重な配慮が望ましいとの中間答申をした。

2)について、賛否両論を委員長より取りまとめ報告した。

3)については、都道府県医療計画の作成についてと較べて、すでにいくつかの地方自治体において医療計画の策定が試みられている。又民間においても自主的にその努力がなされている

ところである。また医療は多くの基盤の上で成っているものであるから、医療計画は難しい問題である。すでに行われている自治体、民間の成果を慎重に見究めたりえて法的規制に踏切っても遅くはないとの中間見解を発表した。

4. 診療録管理通信教育委員会

1. 開催回数 2回
2. 延出席者数 11名
3. 協議項目
 - 1) 卒業、進級試験の合否について
 - 2) 一部カリキュラムの検討
 - 3) 受講料等改定について
 - 4) 社会通信教育要件検討
4. 総 評

本委員会の開催趣旨は社会要請に合致した診療録管理通信教育の実施運営に検討を加えるところにある。

本年度は受講料を5年ぶりに54,000円に改定し、第18期生より適用した。

5. メディカルクラーク通信教育委員会

1. 開催回数 2回
2. 延出席者数 14名
3. 協議項目

第1回(4月12日) 於 東京駅ルビーホール

(1) 新年度教育実施予定について

○年度計画中特に

卒業認定委員会：9月18日(木) 17:00～19:30

認定式：10月11日(土)

○試験・スクーリング日程は

試験日：8月22日

スクーリング：8月19～21日 東京

8月23～25日 京都に決定

第2回(9月18日) 於 東京駅ルビーホール

(1) 卒業認定について

○第4回認定者 51名

(2) 第4回認定証授与式について

○10月11日(土) 17:00～19:30 於 ダイヤモンドホテル

(3) 試験・スクーリングの日程について

○試験日: 2月14日

○スクーリング: 2月11日～13日 京都

2月15日～17日 東京に決定

6. 事務長養成課程通信教育委員会

1. 開催回数 1回

2. 出席者数 11名

3. 協議項目

(4月3日)

1) 昭和55年度教育実施計画(案)について原案通り決定

2) 7月の試験・スクーリング日程について

(1) 試験日程

○第2回生: 7月13日(日)

(2) スクーリング日程について

○第3回生: 7月7日～12日

○第2回生: 7月14日～19日

3) 第1回生の最終試験及び卒業認定式について

(1) 最終試験日: 6月14日(土) 09:00～16:00

(2) 卒業認定式: 7月19日(土) 17:00～19:00

(3) 認定証は、メディカルマーク等と似た型式とする

(4) 卒業記念品を贈る。(細部は高橋委員長に一任)

7. 学術（編集）委員会

1. 開催回数 12回

2. 延出席者数 105名

3. 協議項目

1) 日本病院会雑誌 '80 6月号～'81 5月号の編集

2) " '80 7月号～'81 6月号の企画

4. 雑誌55年度（'80 4～'81 3）主要掲載記事

（4月号）

グラフ・ケニヤ共和国の病院

P P Cと看護体制（紀伊国献三）

ケニヤ共和国の医療事情（西田義夫）

（5月号）

グラフ・デンマークのボランティア老人保健医療サービス

病院における初期医療の計画（高橋勝三）

デンマークの老人保健医療サービス（一条勝夫）

（6月号）

グラフ・'80 国際モダンホスピタルショウ

昭和54年度部会・研究会反省会と報告

随筆・廻診有題（吉岡観八）

（7月号）

グラフ・中央鉄道病院

病院倫理綱領を探る（上）— 医事紛争を意識して（吉岡観八）

菜食と蛋白質、食事とがん（U. D. レジスター）

（8月号）

グラフ・第4回日本診療録管理学会

会告・日本病院会雑誌と病院学の統合について

第4回日本診療録管理学会一般演題抄録

鎖夏随筆32篇

（9月号）

第6回日本病院学会特集号

特別講演・シンポジウム・一般演題抄録

(10月号)

グラフ・実用化に向かう病院情報システム

変貌する医療と看護婦の役割に対する期待(島内武文)

病院におけるコンピュータ利用に関する意識構造分析(折笠秀樹・三宅浩之)

病歴室の広さに関する一考察(犬塚貞光他)

随筆・欽山を訪れて(渡辺進)

(11月号)

グラフ・カンボジア難民救済医療活動とタイ僻地農村巡回診療

カンボジア難民救済医療班に参加して—タイの医療事情(西田義夫)

第21回人間ドック学会一般演題抄録

脳卒中とCT(亀山正邦)

(12月号)

グラフ・自治医科大学附属病院

医療評価の倫理性について(左奈田幸夫)

仕事への奉仕(平沢興)

幕末・明治に来日したイギリス人医師の日本人病歴とその効用(蒲原宏)

医療人の持つべき倫理概念(大森文子)

(1月号)

グラフ・第20回病院視察研究会

日本病院会の病院倫理綱領について(吉岡観八)

第20回病院視察研究会(京都・大阪)

(2月号)

グラフ・聖路加国際病院の今昔

わが国の石油代替エネルギー対策について(川田洋輝)

随筆・マイン河のほとり(渡辺進)

(3月号)

グラフ・倉敷中央病院の今昔

病院情報センター設立目的について(三宅浩之)

スイス・ヨーロッパ病院医療視察報告

随筆・馬の話(財津晃)

8. 広報委員会

1. 開催回数 5回
2. 延出席者数 45名
3. 協議項目
 - 1) 日本病院会ニュースの編集方針について
 - 2) 55年度ニュース発行予算と現況
 - 3) 広告について
 - 4) 各委員からのシリーズテーマの提出と検討について
 - 5) 新製品紹介の選考について
 - 6) 原稿の選考及び取扱い基準について
 - 7) 「原稿の書き方」案の検討について
 - 8) 新imedia資料の作成について
 - 9) ニュースの必要部数及び読まれ方に関するアンケート調査の実施について
 - 10) ニュースの即報性をたかめるために
 - 11) 広報委員提出の原稿の取扱いについて
 - 12) 1めん記事の決定について
 - 13) 昭和56年度予算について
 - 14) 新年号の企画について
 - 15) 座談会の開催結果と今後の方針について
 - 16) 55年度の活動報告について
 - 17) 行天参与からの総括的意見と討論
4. 総 評

新広報委員長の就任に伴い、委員の構成も従来とは一変し、主要な研究会の代表者による新体制でスタートした。基本的な編集方針を、①鈍重であっても会員が心待ちにする新聞にする②一般マスコミで看過されがちな日常の医療における努力を積極的に紹介する。③条件がそろわないところで医療を担っている中小病院にあたたかい配慮をする — の三点に置き、ほぼ所期の目的を達することができた。

今後は、この方針をさらに深めるとともに、組織の拡充・強化に応じ、より攻撃的な広報活動が要求されてこよう。

9. 情報センター委員会

1. 開催回数

- 1) 情報センター委員会 2回
- 2) 病院情報センター運営委員会 2回
- 3) 病院情報センター技術協力委員会 4回

2. 延出席者数 60名

3. 協議項目

- 1) 昭和55年度事業計画について
- 2) 病院情報センター設立について
- 3) 昭和56年度事業計画について

4. 総 評

病院情報センターが本年10月発足し、昭和55年度については、旧コンピュータ委員会の事業を引き継ぎ活動を行なった。また、旧コンピュータ委員として参画していた、各企業を技術協力委員として、迎え、情報交換・技術指導を行なった。昭和56年度事業としては、初年度であり流動的な面もあり、弾力的に対処することとなっている。

10. 社会保険委員会

1. 開催回数 2回

2. 延出席者数 17名

3. 協議項目

- 1) 診療報酬改善案の作成
- 2) 診療録管理料（新設要求）の検討
- 3) 健康保険法等の一部改正について

4. 総 評

社会保険委員会が本年7月に発足し、第1回委員会が8月18日に、第2回が9月25日に開催された。いずれの委員会においても、当面の緊急課題である「診療報酬即時改定」につき活発な意見の交換をみた。内藤会長より「健康保険法の一部改正について」につき社会保険(委)の意見をまとめ答申するよう要請を受けて、当委員会の見解を答申した。また、病院診療報酬は、昭和53年2月に改定が行なわれて以来、2年7カ月間据置かれ、すみやかな改定がのぞまれている。これにもとづき、全国の会員病院より、厚生大臣、衆議院議員及び参議院議員宛の請願

書署名運動を展開した。この結果、最終集計で13,000名の署名がなされ、この請願書を厚生大臣に提出した。

11. 医療経済委員会

1. 開催回数 3回
2. 延出席者数 24名
3. 協議項目
 - 1) 昭和56年度税制改正要望事項について
 - 2) 他病院団体との協力について
 - 3) 源泉徴収に関する質問について
 - 4) 法人税について
 - 5) 昭和56年度税制改正要望とその対策
 - 6) その他
4. 総 評

医療経済委員会では、16項目に及ぶ税制改正の要望を関係省庁に提出し、その実現に努力してきた。その結果、医療用機器に係る特別償却、救急医療用機器に係る固定資産税の軽減措置の延長と省エネ設備投資税額控除の業種指定、等が昭和56年度の税制改正の要望事項として実現の見込みである。医療経済委員会では今後も、実現しなかった要望について、実現するよう努力してゆく。

12. 病院管理委員会

1. 開催回数 2回
2. 延出席者数 10名
3. 協議項目

本委員会は次の6つの小委員会で運営することとした。

 - 1) 労 務
 - 2) 年金・厚生
 - 3) 勤務医（病院職員）対策
 - 4) 医療事故対策
 - 5) 防災対策

6) 物資購入

13. 国際委員会

1. 開催回数 5回
2. 延出席者数 37名
3. 協議項目
 - 1) 昭和55年度海外研修旅行の反省
 - 2) 昭和56年度海外研修旅行の企画
4. 総 評

昭和56年度の海外研修旅行は、総数6コースであり、その内1コースは後援にまわったので、実質的には5コースとなった。56年度の特徴は、従来、旅行案内(パンフレット)の作成及び会員病院への郵送は当会事務局で行なっていたが、これを旅行会社にやってもらうことになったことである。これにより、かなりの経費節約ができることになる。また、コーディネーターの一般募集を行なったところ、3名の方々が新たにコーディネーターの仲間入りをした。今後、逐次、海外ツアーを担当してもらい、新風を吹き込んでもらいたいものとする。次年度は、企画したコースをすべて催行して、日本病院会ならではの海外ツアーであるとの高い評価を得たいと思う。

14. 病院倫理綱領特別委員会

1. 開催回数 6回
2. 延出席者数 30人
3. 協議項目
 - 1) 病院倫理綱領
 - 2) 病院倫理綱領指針
 - 3) 医の倫理について
4. 総 評

55年度新執行部の選任にともない、従来から論議されていた「病院倫理」に関し、新たに特別委員会として発足し、当面同年9月を目途として「病院倫理綱領」作成の諮問が出された。これを受けて本委員会は6月に委員の選任とともに会議を開き、各委員から資料の持寄り等もあり、鋭意綱領の文案に取組んだ。膨大な資料と部厚い原稿をもとに、これらを整理統合し、

そのエキスを盛込んだ「病院倫理綱領五原則」(案)を答申したのが12月6日付であり、同月の常任理事会で、一部修正のうえ「病院倫理綱領」として承認された。

これにもとづき、会員病院での掲額に耐えるよう印刷され、12月中に各病院長宛に発送を完了した。厚生省でもこの主旨を諒とし、高い評価が与えられた。

1月に入り、本綱領の逐条解説となる「指針」の検討を行ない、同じく常任理事会に提案、常任理事会の意見により一部の修正を行なって承認された。

「綱領」は、日本病院会ニュース、日本病院会雑誌に当分の間掲載され、当会の国民医療に対する姿勢を広くPRする方針とされている。

なお、この間において「手術摘出物の病理学的検査の義務化の提言」を理事会に提案、手術適応の当否につき第三者の審定(臨床病理学専攻の医師)を義務づけて、不必要な手術を避けて国民医療に寄与するよう提言し、評価されている。

第5 医療従事者無料職業紹介事業

1. 委員会開催回数 5回
2. 延出席者数 22名
3. 協議項目
 - 1) 運営に関する件
 - 2) 求職申込者の取扱いに関する件
 - 3) 求人・求職募集案内に関する件
 - 4) 地方委員会委員の依頼に関する件
 - 5) 責任者変更届提出に関する件
 - 6) PR文書(案)に関する件
 - 7) 医師の求人状況に関する件
 - 8) 求人病院の広告掲載に関する件
4. 総 評

開業医を上回る伸び率で増加する病院勤務医の将来を見越し、本紹介事業が設置されて1年が経過した。

今年度は、本紹介事業のPR文書を会員病院あるいは医療関係者宛に郵送、あるいは研究会会場で手渡しする等広報活動を中心に展開したが、求人・求職双方の期待に充分添うことができなかった。

56年度は今年度以上にPR活動を図りながら、医療従事者多数の期待に応えられるよう、業務の拡大・推進に努めたいと考えている。

第6. 定例研究会

1. 定例病院診療研究会

1. 開催回数 11回

2. 開催概要

4月15日(火) 日本赤十字社医療センター 33名

日本赤十字社医療センターの特色について(健康棟の設置について)

日本赤十字社医療センター所長 小林 隆

5月20日(火) 心臓血管研究所附属病院 20名

我が国の虚血性心疾患について

心臓血管研究所所長 小山晋太郎

6月17日(火) 座間中央病院 10名

1) 消化器疾患の内視鏡所見

座間中央病院院長 大司俊重郎

2) ^{99m}Tc -HSAによる心プールシンチグラフィの検討 左室駆出率について

座間中央病院副院長 三枝 光夫

7月15日(火) あけぼの病院 15名

中小病院運営のための問題(如何にして病院設立をはかるか、医療法人をつくるかの問題点)

あけぼの病院事務長 青木 亘

8月20日(水) 日本病院会第二会議室 39名

医療と経営

東京厚生年金病院副院長 伊藤 保彦

武蔵野赤十字病院事務部長 東 義晴

9月16日(火) 織本病院 34名

当病院における腎センターの医学、看護および経営(原価管理)

織本病院院長 織本 正慶

織本病院理事 織本 良子

10月14日(火) 関東中央病院 35名

1) 当病院の人間ドックについて

関東中央病院健康管理科部長 大島 純三

2) 超音波診断装置の活用

関東中央病院外科医長 竹原 靖明

12月16日(火) 東芝中央病院 27名

1) 当院の自動化健診について

東芝総合健診センター所長 三輪 卓爾

2) 総合画像診断-CT、超音波、核医学

東芝中央病院外科長 宮川 昭平

3) 病歴管理の一事例

東芝中央病院近代化室グループ課長 西 淳

1月20日(火) 共済立川病院 14名

すこやかに老いるには

共済立川病院院長 相澤 豊三

2月17日(火) 東京都立松沢病院 16名

精神病院のかかえる諸問題

東京都立松沢病院診療部長 金子 嗣郎

3月24日(火) 国立小児病院 17名

国立小児病院の概況(特長)について

国立小児病院副院長 堀 誠

国立小児病院事務部長 前田 寛

2. 定例事務管理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

5月22日(木) 日本病院会会議室 5施設 8名

院内教育の実際

6月18日(水) 全共連ビル 19施設 28名

病院におけるコンピュータ導入に関する現状と今後の動向

8月20日(水) 日本病院会会議室 33施設 37名

医療と経営(病院診療研究会と合同で開催)

3. 定例医事研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

4月18日(金) 三井記念病院 152名

1) 医事業務とコンピュータ画面設計と展開

2) 三井記念医事業務電算化の見学

6月18日(水) 電通生協会館 115名

1) 医学講座—検査について

2) 事例検討

3) 点数解明

4) 全体討議

11月19日(水) 東京トラック事業健保会館 140名

1) 請求もれ防止対策

2) 問題提起と自由討議

2月8日(水) 番町共済会館 193名

1) 接遇について

2) 接遇の事例発表

3) 病院長が期待する医事課員の患者サービス

4. 定例庶務人事研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

5月16日(金) 日本病院会会議室 24施設 27名

定年制をめぐる諸問題

8月29日(金) 日本病院会会議室 35施設 41名

院内報の果す役割・論説委員の立場から

3月12日(木) 日本病院会会議室 51施設 68名

労働基準法施行規則改正と病院運営への影響

銀行における社員教育・窓口担当者の戦力アップとその動機づけ

5. 定例用度研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

5月29日(木) 日本病院会会議室 39施設 45名

1) 価格変動の高い物品の価格実態調査

2) 病院における用度の役割と立場

9月18日(木) 日本病院会会議室 65施設 74名

1) 無駄のない用度業務とは

11月20日(木) 日本病院会会議室 47施設 65名

1) 医薬品の価格、購買上の留意点

2) 医療機械の購入方法について

6. 定例施設研究会

1. 開催回数 5回

2. 開催概要

4月24日(木) 日本病院会会議室 24名

省エネ対策について

8月21日(木) 日本病院会会議室 43名

病院機能に伴う増・改修の問題点

10月16日(木) 日本病院会会議室 54名

病院の防火・防災について

12月11日(木) 日本病院会会議室 18名
施設関係の契約事務と管理技法

2月19日(木) 日本病院会会議室 35名
予防保全について

7. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

4月11日(金) 自治医科大学附属病院 42名
会計経理業務のコンピュータ化

1月21日(水) 東京衛生病院 36名
54年度病院経営分析の発表

8. 定例労務研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

9月30日(火) 日本病院会会議室 11施設 11名
昭和55年度の人事院勧告の分析と私的病院における活用事例・賃金ベースアップ(人件費)と私的病院における対応事例

2月17日(火) 日本病院会会議室 34施設 61名

- 1) B型肝炎と労務対策
- 2) 肝炎病棟における労務対策

9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

7月24日(木) 番町共済会館 121名
未来の医療

厚生省病院管理研究所所長 佐分利輝彦

2月27日(金) 牛込公会堂 280名
病院災害対策(特に大規模震災に備えて)

日本赤十字社医療センター外科副部長 高橋 有二
中央防災会議専門委員

10. 定例薬事管理研究会

1. 開催回数 5回

2. 開催概要

5月15日(木) 東医健保会館 68名

- 1) アメリカにおけるクリニカルファーマシーの展望
- 2) 病院管理者からの薬剤部への期待

メモリアル病院メディカルセンター 副院長 J. ウェイブレン

7月10日(木) 番町共済会館 35名

各病院における学生実習の実際と問題点

東京通信病院薬剤部長 永瀬 一郎

同愛記念病院薬剤科長心得 八木下将也

9月11日(木) 番町共済会館 62名

血液製剤の取扱いの現実と理想

日本赤十字社医療センター薬剤部長 真田 幸良

国立小児病院薬剤科長 菅山 修二

12月11日(木) 家の光会館 80名

麻薬管理のありかた(ペンダゾシン等を含めて)

厚生省薬務局麻薬課長補佐 筋内 博行

2月19日(木) 東医健保会館 82名

老人と小児に対する投薬上の問題点

東京都養育院附属病院薬剤科長 木村 徳三

国立小児病院薬剤科長 菅山 修二

11. 定例栄養管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

4月22日(火) 雪印乳業㈱ 54名

洗浄剤の安全性と環境汚染 洗浄剤の科学

12月2日(火) 安田火災海上保険㈱ 38名

成長期における栄養と現在の問題点

定例栄養・調理合同研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

2月25日(水) 日本専売公社東京病院 102名

- 1) 食塩10gの献立と調理

2) 最近のアメリカ病院見聞記

12. 定例調理研究会

1. 開催回数 3回
2. 開催概要
 - 5月28日(水) 電通生協会館 63名
糖尿病食について
 - 7月17日(木) 電通生協会館 79名
腎臓・心臓食について
 - 9月16日(火) 電通生協会館 93名
肝臓食・肝硬変食・低脂肪食について

13. 定例診療録管理研究会

1. 開催回数 4回
2. 開催概要
 - 第52回 4月12日(土) 42名
横浜市立大学医学部病院病歴室見学
 - 第53回 7月12日(土) 55名
杏林大学病院病歴室見学
 - 第54回 10月11日(土) 48名
虎の門病院病歴室見学
 - 第55回 1月10日(土) 40名
順天堂医院病歴室見学

3. 診療録管理研究会成長の軌跡

第1回	42. 7.22	聖路加国際病院	病院統計の数の数え方
第2回	42.10.14	駿河台日大病院	国際疾病分類の改正について(そのⅠ)
第3回	43. 1.20	佼成病院	アメリカの病歴管理をみて
第4回	43. 4.13	順天堂医院	国際疾病分類の改正について(そのⅡ)
第5回	43. 7.13	関東通信病院	業務統計及び医療評価
第6回	43.10.12	社保中央病院	ストックホルムの国際学会
第7回	44. 1.11	東京警察病院	病歴士に必要な臨床検査の常識
第8回	44. 4.12	虎の門病院	改正後の疾病分類について
第9回	44. 7.12	聖路加国際病院	病歴士に必要な内科の知識

第10回	44.10.11	駿河台日大病院	病歴士に必要な外科の知識
第11回	45. 1.10	中央鉄道病院	欧米の病歴室をみてきて
第12回	45. 4.11	日本鋼管病院	手術分類について
第13回	45. 7.11	日本板橋病院	病歴室新設にあたっての問題点
第14回	45.10.17	都立豊島病院	病歴室の設備について
第15回	46. 1. 9	河北病院	病歴士の行なう医療記録内容の量の統制
第16回	46. 4.10	東京医大病院	病歴管理規定について
第17回	46. 7.10	武蔵野日赤病院	日赤診療業務統計について
第18回	46.10. 9	東京通信病院	国際疾病分類疑義解釈
第19回	47. 1. 8	杏林大学病院	病歴士の日常の仕事について
第20回	47. 4. 8	東京慈恵医大病院	病名コーディングの検討について
第21回	47. 7. 8	日大板橋病院	病院統計について
第22回	47.10.14	北里大学病院	当院の病歴管理について
第23回	48. 1.20	順天堂医院	病歴管理業務
第24回	48. 4. 4	駿河台日大病院	コンピュータと病歴管理
第25回	48. 7.14	聖路加国際病院	外来カルテのファイリング
第26回	48.10.20	東京女子医大病院	心臓血圧研究所における病歴管理システム
第27回	49. 1.12	(電設健保会館)	留学体験 台湾大学医学部病院
第28回	49. 4.20	中央鉄道病院	外来カルテの搬送機と病歴室見学
第29回	49. 7. 6	聖マリアンナ医大病院	病歴室見学
第30回	49.10.29	関東通信病院	コンピュータと病歴室見学
第31回	50. 1.11	(番町共済会館)	ハワイ病院病歴室を見学して
第32回	50. 4.12	佼成病院	病歴室見学
第33回	50. 7. 5	日大板橋病院	〃
第34回	50.10.11	東京警察病院	〃
第35回	51. 1.10	杏林大学病院	〃
第36回	51. 4.10	都立豊島病院	〃
第37回	51. 7. 3	東京厚生年金病院	〃
第38回	51.10. 9	北里大学病院	〃
第39回	52. 1. 8	聖路加国際病院	〃
第40回	52. 5.30	駿河台日大病院	〃
第41回	52. 7. 9	都立駒込病院	〃
第42回	52.10. 8	国立病院医療センター	〃

第43回	53. 1.14	慶応大学病院	病歴室見学
第44回	53. 4. 8	日大板橋病院	〃
第45回	53. 7. 8	佼成病院	〃
第46回	53.10.14	聖路加国際病院	〃
第47回	54. 1.13	東京通信病院	〃
第48回	54. 4.14	東海大学病院	〃
第49回	54. 7.14	東京警察病院	〃
第50回	54.10.13	河北総合病院	〃
第51回	55. 1.12	千葉大学病院	〃
第52回	55. 4.12	横浜市立大学病院	〃
第53回	55. 7.12	杏林大学病院	〃
第54回	55.10.11	虎の門病院	〃
第55回	56. 1.10	順天堂医院	〃

14. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 6回

2. 開催概要

4月23日(水) 北品川総合病院 22名

- | | |
|-----------------|------------|
| 1) 地域医療協議会のはたらき | 評議員 鎌田 利雄 |
| 2) 顧問医制度について | 内科医 横山 雅一 |
| 3) 院外処方箋の処方について | 薬剤課長 井上恭仁子 |

5月22日(木) 東京消防庁 27名

東京消防庁災害救急情報センターの業務実態

東京消防庁救急部救急管理課

7月8日(火) 食糧会館 45名

ある出会い 木暮実千代

11月20日(木) 京浜総合病院・京浜予防医学研究所 19名

私の医療経営像 会長 矢作 忠政

12月12日(金) 榊原記念病院 23名

- | | |
|-------------------------|-----------|
| 1) 心臓病専門病院としての医療の実績について | 院長 小船井良夫 |
| 2) 当院の経営管理について | 監理部長 田邊 勇 |

2月19日(木) 番町共済会館 48名

- | | |
|----------------|------------------|
| 1) 病院組織と人間関係管理 | 厚生省病院管理研究所 姉崎 正平 |
| 2) 病院人としての心がまえ | 日本大学医学部 三宅 史郎 |

15. 定例放射線研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

4月19日(土) 大宮市民会館 69名

(全体討議) 看護婦と放射線技師との業務連携

8月15日(金) 川崎胃腸病院 30名

1) (全体討議) 放射線科における日計表の問題点

2) 最近における超音波診断装置(実物展示)

3) 院内見学

12月12日(金) 牧田総合病院 26名

1) (全体討議) 医療人のありかた

2) 日立メディコのポータブル型X線装置の技術的説明と実物の展示

3) 院内見学

2月20日(金) 東京都済生会中央病院 30名

1) (全体討議) 放射線科における保険点数に関する諸問題

2) 院内見学

16. 定例臨床検査研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

6月20日(金) 半蔵門会館 15施設 19名

洗剤の安全性と環境汚染について 川崎市衛生研究所臨床検査係長 小林 勇

8月7日(木) 番町共済会館 44施設 72名

臨床化学検査以外の精度管理について

(パネルディスカッション)

1) 血液の関係 東京都済生会中央病院検査技師長 坂内 英明

2) 細菌の関係 順天堂大学附属順天堂医院検査主任 小栗 豊子

3) 一般の関係 昭和大学附属病院検査技師長 平沢 政人

4) 血清の関係 越谷市立病院検査技師長 近藤 弘司

11月28日(金) 東医健保会館 24施設 33名

1) 血中薬物濃度のモニタリングについて

① 抗瘰癧剤の血中濃度について

順天堂大学臨床病理学教室講師 猪狩 淳

② 血中薬剤の測定法について

昭和大学臨床病理学教室助教授 五味 邦英

17. 定例ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

7月17日(木) 日本病院会会議室 15名

現に悩んでいる具体的問題と解決策

10月22日(水) ㈱リンレイ秦野工場 43名

合理的なフロアメンテナンスを求めて

12月3日(水) 都立神経病院 7名

施設見学

3月13日(金) 昭和西川㈱ 60名

これからの基準寝具を考える

3. 総評

本年度研究会の特徴は、業者見学にあった。

昨今、ハウスキーピング業務をとりまく環境成因のうち技術的なそれは、進歩が著しく、業務そのものの変化をきたしている。

特に、情報の有用性の価値判断は、病院規模に左右される傾向を踏えても、情報の不足は業務の完遂化に直結する。

業務のベーシックなものに限定した点、又、業者見学そのもの自体のもつ限界、これからの課題でもあり、研究会の方向性に問題を呈示した。

第7. 内科臨床協議会 (Joint Conference)

参加人員

4月15日(火)	東京警察病院	肺結核と軽度の糖尿病で外来通院中、意識消失と呼吸不全で救急入院し、死亡した一例 60才 男性	14名
6月5日(木)	国立病院医療センター	(1) 非定型再生不良性貧血に橋本病、多発性のう胞腎を合併した症例 78才 男性 (佼成病院) (2) カルチノイド症候群を呈し原発不明であった症例の一部検例 66才 男性 (日本赤十字社医療センター) (3) Spontaneous Peritonitisの一例 (国立病院医療センター)	36名
7月17日(木)	関東通信病院	(1) 血清蛋白異常症と血尿を呈した脳出血の一症例 67才 女性 (北品川総合病院) (2) 全身浮腫のみを主訴として入院した22才の女性症例 (厚生中央病院) (3) 右股関節痛を主訴とし、消費性凝固障害をきたした一症例 48才 男性 (関東通信病院)	21名
8月20日(水)	青梅市立総合病院	(1) 診断困難であった腹痛の症例 52才 男性 (青梅市立総合病院) (2) 高熱と意識障害を伴った症例 29才 男性 (福生病院)	12名
9月25日(木)	済生会中央病院	低血糖について (済生会中央病院、永寿総合病院)	27名
10月2日(木)	関東中央病院	(1) 発熱と右下腹部痛を主訴とし、注腸X線で上行結腸に著しい変形を認めた一例 51才 男性 (関東中央病院) (2) 巨大な腹部腫瘤の一例 (中央鉄道病院) (3) 突然発症した腹痛、下血の二症例	22名

		参加人員	
	37才 女性 (国立大蔵病院)		
	(4) 特異な型のアルドステロン症の一例		
	47才 男性 (自衛隊中央病院)		
10月30日(木) 都立墨東病院	(1) 背髄横断症状を呈した胆管細胞癌疑いの一例 (国立国府台病院)	19名	
	(2) 金製剤によると思われる間質性肺炎の一例 (都立墨東病院)		
	(3) 原発性アルドステロン症の一例 (都立墨東病院)		
11月20日(木) 共済立川病院	(1) 急性砒素中毒に伴った溶血性貧血並に腎不全の一例 (共済立川病院)	13名	
	(2) 重症肺感染症を合併して死亡した皮膚筋炎の一例 (国立立川病院)		
	(3) 腎結石を有し敗血症をくりかえしたSLEの一例 (国立立川病院)		
	33才 女性 (国立療養所村山病院)		
2月9日(月) 聖路加国際病院	(1) 急性心不全に合併した肝機能障害の一例 (聖路加国際病院)	30名	
	(2) 溶血発作を頻発する鉄欠乏性貧血の一例 (国立がんセンター)		
	(3) 興味ある症状を呈したポイツィエガー症候群の一例 (三楽病院)		
	32才 女性 (三楽病院)		
2月17日(火) 河北総合病院	(1) 腎不全、心不全、高血糖を示した意識障害の一例 (東京厚生年金病院)	36名	
	(2) 紫斑性腎炎から急激に尿毒症を発症した一例 (社保中央総合病院)		
	(3) エオジノフィリアを伴った急性腎不全の一例		

参加人員

- 2月27日(金) 公立昭和病院
- 69才 女性 (河北総合病院)
- (1) Unknown mineral corticoid excess 14名
Syndrome の一例
- 35才 男性 (公立昭和病院)
- (2) 不明の肝腫
- 37才 女性 (武蔵野赤十字病院)

第8. 全国研究会

1. 全国病院診療研究会

1. 開催回数 1回
 2. 開催期日 昭和55年11月21日(金)～22日(土)
 3. 開催地 横浜市 神奈川県医師会ホール
〃 神奈川県こども医療センター
 4. 参加者数 38施設 90名
 5. 演 題
 - 1) 病院組織と人間関係
講師 北品川総合病院院長 河野 稔
 - 2) これからの病院経営におけるいくつかのポイントについて
講師 武蔵野赤十字病院事務部長 東 義晴
 - 3) ヨーロッパのプライマリーケア
講師 大口病院理事長 小野 肇
 - 4) シンポジウム「神奈川県救急医療システムについて」
 - (A) 第一次救急医療とくに新生児救急医療について
神奈川県医師会理事 相見 基次
 - (B) 第二次救急医療と医療情報システムについて
大船中央病院院長 榊岡 勇雄
 - (C) 第三次救急医療について
北里大学医学部救急センター長 大和田 隆
 - (D) 救命救急医療について
聖マリアンナ大学救命救急センター長 前田 徳尚
 - 5) 芙蓉会富士見産婦人科病院問題の経過
 - 6) 病院基準米について
講師 日本病院会広報渉外部長 福永 弾丸
 - 紹介映画 「病める子らに明るい未来を」
 - 7) 地域医療における小児病院のあり方
講師 神奈川県立こども医療センター所長 小西 宏
6. 総 評

11月21日、22日の両日、神奈川県病院協会の共催及び神奈川県医師会の後援によって、かねて懸案の当地における開催ができたことは、関係者の絶大なご尽力の賜であり、参

加者は90名、東は秋田、西は大阪までに股がっている。開催の成功は、神奈川県病院協会並に同医師会のご協力の賜と各講師、シンポジスト各位のご援助によるものである。

2. 全国事務管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和55年10月16日(木)～17日(金)
3. 開催地 札幌市 北海道立社会福祉総合センター
4. 参加者 73施設 151名
5. 演 題
 - 1) 最近の病院における施設管理のウィークポイント
 - 2) 病院の計数管理、その具体的活用の仕方と効果
 - 3) 病院経営に直結する医事業務、看護婦業務との有機的関連性の改善
 - 4) 病院の倫理
 - 5) 80年代における病院経営の展望
 - 6) 病院業務へのコンピュータ導入のアプローチ
 - 7) 病院管理から見た80年代の看護管理、特に看護単位と看護体制
 - 8) シンポジウム

労務管理に関する中間管理者(婦長・課長・技師長等)の役割

6. 総 評

本年度の勉強会は年1回の開催とし、内容を一段と充実させて開催した。特に北海道開催という事で参加者数が懸念されたがかつてない参加者が集り、事務長のみならず、いわゆる中間管理者の参加が多く好評を得た。特にシンポジウムでは、中間管理者の責任と義務、各職場間の協調等、広い視野で「病院」を見直し、考えをまとめて行くという認識が得られた等の成果があり、大変有意義であった。なお今後の課題として、年により1テーマで深く掘り下げて連続的なシリーズ方式を取り入れたらよいのではないかという意見もあり、さらに検討する余地があると思われる。

3. 全国医事研究会

1. 開催回数 4回
2. 開催期日 (第1回) 昭和55年5月15日(木)～16日(金)
(第2回) 昭和55年7月17日(木)～18日(金)
(第3回) 昭和55年10月23日(木)～24日(金)
3. 開催地 (第1回) 山口市 共済苑

(第2回) 軽井沢町 塩壺温泉ホテル

(第3回) 青森市 青森県農業会館

4. 参加者数 (第1回) 53施設 86名

(第2回) 34施設 67名

(第3回) 69施設 126名

5. 演 題

(第1回)

- 1) これからの病院管理を考える
- 2) 医事課員のためのやさしい医学知識
- 3) 患者サービスについて
- 4) 医事課職員教育について
- 5) 点数算定の方法
- 6) グループ討議
- 7) 事例解答例の説明
- 8) 全体討議

(第2回)

- 1) 医事課員のためのやさしい医学知識
- 2) 事例研究
- 3) グループ討議
- 4) 事例解答例の説明
- 5) 全体討議

(第3回)

- 1) 医事課員のためのやさしい基礎医学
- 2) 保険点数と簡単な基礎医学知識
- 3) 請求もれ防止対策
- 4) 事例算定の方法
- 5) グループ討議
- 6) 事例解答例の説明
- 7) 全体討議

4. 全国庶務人事研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和55年11月13日(木)～14日(金)

3. 開催地 松山市 勤労会館

4. 参加者数 37施設 50名

5. 演 題

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1) 院内のコミュニケーションについて | 松山赤十字病院長 土屋 定敏 |
| 2) 院内報について | 聖路加国際病院庶務課次長 石山 稔 |
| 3) 院内の諸行事 | 東京衛生病院人事課主任 西浦 捷裕 |
| 4) 新聞よもやま話 | 元朝日新聞社論説委員 野上 正 |
| 5) 最近の労働問題 | 愛媛地方労働委員会公益委員 二宮 基保 |
| 6) 庶務・労務・人事の日常管理上の諸問題 | 庶務人事研究会委員全員 |

6. 総 評

院内報・院内の諸行事をとおしてのコミュニケーションのもち方について研究し、松山赤十字病院長 土屋定敏氏による患者を中心に考えた病院作りについての講演も特に関心がもたれたようである。院内のコミュニケーションを、医師だけでなく医療従事者と共に考える研究の場をもっと多く持つ必要性がある。

5. 全国用度研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和56年2月12日(木)～13日(金)

3. 開催地 福岡市 福岡県町村自治会館

4. 参加者 84施設 117名

5. 演 題

- 1) 80年代の病院管理（用度担当者のあるべき姿）
- 2) 用度業務に関する調査
- 3) 福岡赤十字病院の用度業務、特に医療機器購入について
- 4) 医療機器購入ルートに関する調査
- 5) 医療消耗品、石油、フィルム価格調査
- 6) 医薬品購入に関する調査
- 7) グループ討議・全体討議（効果的な医薬品の購入方法は？）

6. 総 評

本年度のアンケート調査は、開催地を中心に九州・中国・四国地方で実施した資料を基に関東地方で先に実施した調査を参考にしながらの解説・検討を主体とし、参加者の情報交換を行なった。毎年のことながら価格情報が主となり解説不足という問題もあるが、グループ討議・全体討議の中でかなりつっこんだ意見も出され有意義な勉強会であったと思

われる。また本年度は、「80年代の病院管理」と題した特別講演をプログラムに取り入れた事は、用度担当者の病院での役割の重大さを示唆するものであり、参加者に多大な感銘を与えた。今後の課題として、討議の時間をさらに多く取り、参加者全員で検討を加えるような時間をもっと取り入れる必要があると思われる。

6. 全国施設研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和55年5月22日(木)～23日(金)
3. 開催地 新潟市 新潟厚生年金会館
4. 参加者数 60施設 78名
5. 演 題
 - 1) アンケート集計報告
 - 2) 病院の排水規制について
 - 3) 増改築に伴う問題点
 - 4) 自動式運転ボイラーの事故例と対策
 - 5) 簡易専用水道の規制について
 - 6) 省エネルギー対策の事例(電気、水道、その他)
 - 7) 施設外注管理の事例
 - 8) 日・米の防災対策の相違

6. 総 評

昨年度の全国研究会は参加者が少ないため中止となったが、今年度は78名と近年になく多数が参加し、大盛況であった。その理由としては以下のことがあげられる。まず、テーマの設定にあたって、定例研究会で好評であったものを中心にしたこと。第二に、事前にアンケートを行いその集計結果をテーマにしたこと。第三に、地元の病院協会の協力で全病院に案内が行きわたったこと。最後に、開催時期が適切であったことがあげられる。以上のことをふまえ、今後の全国研究会を運営していきたい。

7. 全国会計経理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和55年10月16日(木)～10月17日(金)
3. 開催地 浜松市 労政会館
4. 参加者数 50施設 57名
5. 演 題

- 1) 特別講演「最近の経済状況と今後の展望」
- 2) 医療評価の倫理について
- 3) 病院経営の多角化について
- 4) 最近における税務会計上の諸問題
- 5) 病院における財務指標の評価
- 6) 経営分析集計結果の発表

6. 総 評

当研究会は、52年度より原則的に東京から大阪までの間で実施するようにしており、本年度はじめて浜松市で開催したが、少々無理があったようだ。

ただ内容的には参加者の好評を得た。

8. 全国労務研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和55年7月17日(木)～18日(金)
3. 開催地 浜松市 浜松商工会議所
4. 参加者数 46施設 78名
5. 演 題 「病院労務と職場管理」

1) 主任看護婦・婦長の育成

日本赤十字病院の実例	日本赤十字社本社看護課長	有田 幸子
聖路加国際病院の実例	聖路加国際病院総婦長	内田 椰子
佼成病院の実例	佼成病院人事課長	岡野 博

2) 職場リーダーの労務管理ポイント

婦長の立場から	聖路加国際病院総婦長	内田 椰子
栄養課長の立場から	成田赤十字病院栄養課長	渡辺 利雄
事務課長の立場から	聖隷浜松病院事務次長	伊藤 和彦
技師長の立場から	昭和大学医学部附属病院臨床検査技師長	平沢 政人

3) 特別講演「80年代の職場管理」

遠州監督者訓練協会所長 小杉 基隆

4) これからの病院賃金

支払能力と病院賃金	東京都済生会向島病院事務次長	稲垣 武
職務能力を反映させた賃金体系	石和温泉病院企画統括室長	斉藤 正夫
職務能力と資格制度	佼成病院人事課長	岡野 博

6. 総 評

職場における労務管理領域を分類すると“労使関係”“労働関係”“人間関係”の管理

で、この3要素は、物・金・人の管理であり、この3要素の管理のよしあしが病院の興亡を左右するといわれている。物と金は合理的に理性的に処理することが可能であるとしても、人の管理については理性だけでなく感情という二面性をもっている。

80年代の人材の条件として考えるとき、この流動的な社会の価値感とその変化への対応、能力の開発等々の要因に対してこれからのマネジメント・トレーニングにも新しい力点が必要と思われるが、このベースになる人間像とは「行動力ある人」「創造性に富み、思考能力のある人」「柔軟な適応能力のある人」等が求められる指導者の資質と思われる。今後も更に新しい問題の検討を含め研究していく。

9. 全国看護管理研究会

1. 開催回数 2回

(第1回)

1. 開催期日 昭和55年6月19日(木)～20日(金)

2. 開催地 青森市 青森県農業会館

3. 参加者数 50施設 104名

4. 演題

1) 変貌する医療と看護の役割 秋田労災病院院長 島内 武文

2) 中間管理者の役割(シンポジウム)

病院長の立場 弘前大学医学部教授 品川 信良

事務長の立場 国立療養所八戸病院事務部長 荒 民治

総婦長の立場 八戸赤十字病院看護部長 黒坂 文子

婦長の立場 青森県立中央病院婦長 増田乃ぶ子

3) 最近の臨床指導 弘前大学教育学部講師 大串 靖子

4) 卒後教育について(グループ討議)

A 新採用者の教育

B 経験ある職員の教育

C 特殊技術を必要とするICU、CCUなど勤務者の教育

5. 総評

管理者の研究会のため、一般看護婦を対象とした研究会よりは参加者が少ないが、参加者は北海道から福岡、熊本まで多県に亘り、グループ討議等も地域医療を反映させた熱心な討議が交わされた。又、後援の日本看護協会、青森県支部協議会のご協力には深く感謝している。

(第2回)

1. 開催期日 昭和55年10月16日(木)～17日(金)

2. 開催地 東京都 薬学会館ホール

3. 参加者数 72施設 164名

4. 演 題

1) 看護の動向について 厚生省医務局看護課長 清水嘉与子

2) よりよい患者ケアはどうあったらよいか(シンポジウム)

看護体制について 慶応義塾大学病院婦長 前田 照子

地域看護について 東京老人総合研究所看護学研究室研究員 鎌田ケイ子

医療チームとの調整について 神奈川県衛生看護専門学校
附属病院看護部長 松澤 孝子

入院患者として看護に何を期待するか

昭和大学附属病院臨床検査技師長 平沢 政人

3) 最近の臨床指導 千葉大学看護学部教授 吉武香代子

5. 総 評

この研究会は、年度事業計画では奈良市で開催が予定されていたが、10月7日(金)日本病院会、滋賀県病院協会、滋賀県看護協会の3団体共催による看護研修会が、滋賀県草津市で開催されたので、日時・開催場所とも滋賀県と奈良県では近すぎるため、この会を東京都で開催に変更し、19都府県より164名の参加者を集めて開催された。6月の青森市の研究会同様、対象が管理職者に限られるため、看護研究会ほどの参加者はないが、終始熱心な研究が続けられた。

10. 全国看護研究会

1. 開催回数 3回

(第1回)

1. 開催期日 昭和55年9月25日(木)～26日(金)

2. 開催地 甲府市 山梨県看護会館

3. 参加者数 64施設 148名

4. 演 題

1) 患者の問題点のとらえかた 長野通信病院総婦長 国司 昌子

2) カンファレンスの持ちかた 経営問題研究会 二槌木英雄

3) 病院災害対策(特に大規模震災に備えて)

日本赤十字社医療センター外科副部長 高橋 有二
中央防災会議専門委員

4) 災害と看護（宮城県沖地震の経験から）

東北公済病院看護部長 齊田トキ子

5. 総 評

今回は特に講演のみの内容であったが、北は北海道から南は高知県まで17都道府県から参加者があり、200名定員の会場も関係者を入れて約定員近くなり、2日間大変熱心に講議を受けていた。特に病院災害対策（特に大規模震災に備えて）は、講演のみでなく実技指導も入り大変好評であった。

（第2回）

1. 開催期日 昭和55年11月6日(木)～7日(金)

2. 開催地 山形市 山新テレビホール

3. 参加者数 41施設 228名

4. 演 題

1) カンファレンスの持ちかた 聖路加国際病院総婦長 内田 卿子

2) 患者の問題点のとらえかた
新潟大学医療技術短期大学看護学科助教授 原 幸子

3) 看護場面における異常のとらえかた
山形県立成人病センター第十科長 菅野 邦明

4) モニター使用時の看護のポイント
山形県立成人病センター第二科長 横山 絃一

5. 総 評

一般看護婦が対象のため基礎的テーマをとりあげたが、地元山形県及び東北近県はもとより、南は福岡まで広範囲に亘り参加者があり終始熱心に勉強された。特に後援団体の山形県病院協議会、日本看護協会山形県支部協議会並びに篠田病院のお力添えが大きく盛会裡に終了することができた。

（第3回）

1. 開催期日 昭和56年1月29日(木)～30日(金)

2. 開催地 千葉市 千葉相互銀行講堂

3. 参加者数 58施設 240名

4. 演 題

1) 看護場面における異常のとらえかた
千葉県救急医療センター長 野口 照義

2) モニター使用時の看護のポイント
千葉大学附属病院麻酔科助教授 飯島 一彦

3) 患者の問題点のとらえかた

東京女子医科大学看護短期大学教授 藤枝 和子

4) カンファレンスの持ちかた

経営問題研究会代表取締役 二挺木秀雄

5. 総 評

演題は11月の山形市で開催のものと同じとしたが、受講者は山形参加者以外の人達で、北は秋田、新潟から南は徳島、佐賀県とこれも前回同様広範囲に各県からの参加者があり2日間熱心に受講された。

また、後援の日本看護協会看護婦部会千葉県支部及び柏戸病院のご協力により、予想以上の成果をあげることが出来た。

11. 3 団体共催看護研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和55年10月7日(火)

3. 開催地 滋賀県 草津市

4. 参加者数 226名

5. 演 題 「患者と家族の関係における看護の役割」

1) 家族へのかかわりかた

心理カウンセラー(I T A A正会員)
人間開発センター主任研究員 藤倉 勝弘

2) 患者に対する家族への影響

講師 木田クリニック 木田孝太郎

6. 総 評

日本病院会、滋賀県病院協会、滋賀県看護協会の3団体共催により開催された。滋賀県を中心に大阪、兵庫、京都、奈良、和歌山、岐阜、三重に案内を送付したが、この結果、滋賀県より190名、その他の県より36名、計226名の参加者を集めた。日本病院会より代議員会議長・長浜赤十字病院の財津晃院長、滋賀県病院協会より細田精一会長、滋賀県看護協会より園田美枝会長、来賓として滋賀県厚生部技監鎌田昭二郎氏がそれぞれ挨拶された。

第1回の合同研修会であったが成功であったと思う。

12. 全国薬事管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和55年10月13日(月)～14日(火)

3. 開催地 神戸市 川崎重工業健保会館

4. 参加者数 100施設 126名

5. 演 題

1) 薬物結晶形とバイオアベイラビリティ

神戸大学医学部教授 黒田 耕司

2) 薬物購入の問題点（シンポジウム1）

① 卸の立場から

三星堂薬事管理部長 松尾 正三

② 事務部門の立場から

吉田病院事務長 杉本 良一

③ 薬剤部門の立場から

大森赤十字病院薬剤部長 垣花 満

神戸市立中央市民病院薬剤科長 茶本 弘

3) 業務量と人員構成

国立療養所刀根山病院薬剤科長 後藤 尚夫

4) 病院収入にかかわる医療保険の問題点（シンポジウム2）

① 薬価基準等について

東大阪市立中央病院薬剤部長 松永 俊夫

② 調剤技術料について

新千里病院参事薬剤部長 中江喜久蔵

5) 病棟における薬品管理（シンポジウム3）

① サテライトファーマシーの設置

岡山済生会病院薬局長 洲脇 純三

淀川キリスト教病院薬局長 保田 静江

② 病棟受持制の実施

国立病院医療センター薬剤科長 吉本 与一

6. 総 評

兵庫県病院協会、兵庫県私立病院協会、兵庫県病院薬剤師会の3団体の後援で開催されたが、後援団体よりそれぞれの立場から大変な協力をして頂いた関係もあり、参加者も北は秋田県から南は九州各県まで、23都府県から126名の参加者を集め2日間終始熱心な討議が交され盛会裡に終了した。

13. 全国栄養管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和55年9月4日(木)～5日(金)

3. 開催地 新潟市 新潟県中小企業会館

4. 参加者数 105施設 131名

5. 演 題

1) 特別講演「ミネラルの生理化学」

2) 「潜血食テストにおける正常人の反応について」

3) シンポジウム「食塩10gと病院給食」

4) グループ討議「おいしい患者給食を目指して」

5) 分科会

「適温給食と適正給食時間」

「患者食堂と選択メニュー（複数献立）」

「適正人員と従業員教育」

「適正材料費、設備、食器等」

6. 総 評

「日本人の栄養所要量について、食塩は1日につき10g以下が望ましい。」

昭和54年、厚生省が示したこの見解に対し、多くの病院では試行錯誤しながらもこの数値に近づけようと努力がなされている。

このような状況をふまえ、地元栄養士を交えたシンポジウム形式での「食塩10gと病院給食」を企画した。

企画段階において今年度は昨年度の反省事項に留意し、半年程前から開催地元関係者と連絡をとりながらプログラムを作成した。当然、研究会を開催する意義が地元でも充分理解され、地元関係団体の全面的な協力を得ることができた。それは、参加者の約65パーセントが地元栄養士であったことでもうかがうことができる。

ちなみに、昨年度は栄養・調理合同研究会でもあり、テーマを多岐にわたらせたにもかかわらず、参加者は栄養管理研究会単独で開催するよりも少なく地元関係者は約25パーセントにとどまった。

アンケートをみても、今年度は運営がスムーズでテーマが時宜にかなっているとの回答が多く、その成果が期待されるところである。

14. 全国調理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和55年11月12日(水)～13日(木)

3. 開催地 富山市 高志会館

4. 参加者数 58施設 89名

5. 演 題

1) 病態栄養講座「糖尿病と食事療法について」

2) 病態栄養講座「糖尿病患者の食事指導とレクリエーション指導について」

3) 特別講演「給食管理のあり方」

4) 事例発表

「治療食における塩分の使用方法について」

- 「全自動連続ガス炊飯器を使用して」
- 「調理技術の向上について」
- 「6時給食実施について」
- 「病院給食調理を担当して」
- 「栄養部業務としての給茶サービスについて」

5) 全体討議

- 「温食給食」
- 「材料購入の問題点」
- 「災害時対策」
- 「消毒と洗浄」
- 「人間関係」
- 「各病院での勉強会の実態」

6. 総 評

研究会のあり方を今年度は一新することに心がけた。

昨年度までの研究会は単に講演を聞くにとどまり、閉会後のアンケート集計結果も、全国各地から集まった参加者相互の情報交換が可能となるようなプログラム作成を配慮してほしいとの声が大であった。

今年度は病院調理師として必須である病態栄養、給食管理についてのみ専門講師に依頼するほかは、病院調理師による事例発表、さらに6テーマにわたって参加者全員による全体討議の時間に費やした。その時間は、2日間の研究会の3分の2を占めた。

結果は、テーマが各病院調理師にとって身近なものであったことから熱心な質疑討論を呼び、閉会后、参加者から病院調理師の自覚をあらたにするとともに、ちょっとした調理の工夫例を知り、かつ日頃かかえている問題の解決への糸口を見つけることができたとの声が聞かれた。

今後も、このような観点から各病院調理師がかかえる諸問題をとりあげ、理想とする病院給食へ向けて進んで行きたいと思っている。

15. 全国診療録管理研究会

1. 開催回数 1回(第12回)
2. 開催期日 昭和55年9月20日
3. 開催地 郡山市 善導寺文化会館
4. 参加者数 43施設 79名

5. 演 題

1) 診療記録と口述筆記

2) 集団討議

- ・ 病歴室の業務について
- ・ ファイリングおよびナンバーリングについて
- ・ 病歴室の運営について
- ・ 分類について
- ・ 診療記録の保管について
- ・ カルテマイクロ化について

6. 開催記録

第 1 回		大 阪	
第 2 回		八 幡	
第 3 回	45. 7. 22	津	100名
第 4 回	46. 8. 13	岡 山	88名
第 5 回	47. 8. 30	新 潟	86名
第 6 回	48. 10. 11	仙 台	66名
第 7 回	49. 9. 27	松 江	66名
第 8 回	50. 9. 19	福 岡	73名
第 9 回	51. 9. 22	呉	52名
第10回	52. 9. 14	金 沢	75名
第11回	53. 5. 10	松 山	48名
第12回	55. 9. 20	郡 山	79名

16. 全国病院管理総合研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和 55 年 10 月 21 日(火)～22 日(水)
3. 開催地 東京都 家の光会館
4. 参加者数 33 施設 61 名

5. 演 題

- 1) 「よい看護とは」 神奈川県衛生看護専門学校附属病院 松沢 孝子
- 2) 「病院看護と病院経済」 北里大学 井上 昌彦
- 3) 「言葉の使いかた」 東京ビジネス専門学校 中 研一

4) 著名女性経営者によるシンポジウム「私の病院経営理念」

座長 目蒲病院 石橋 秀雄

講師 遠山病院 遠山 美知

セントラル病院 安藤 明子

織本病院 織本 良子

5) 「1980年代の病院像」

医事評論家 水野 肇

17. 全国放射線研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和55年6月27日(金)～28日(土)

3. 開催地 神戸市 兵庫県私立病院協会神戸看護専門学校講堂

4. 参加者数 33施設 34名

5. 演 題

1) 総合画像診断の現状

神戸大学医学部放射線医学教室助教授 河野 通雄

2) 中小病院の放射線科に関連する帳票類のありかた(全体討議)

3) 患者の接遇 西日本相互銀行社長室副部長 福田 靖

4) 開発途上国における医療事情(カンボジア難民医療班に参加して)

佼成病院放射線科部長 西田 義夫

5) 放射線科における保険請求と諸問題(全体討議)

6. 総 評

兵庫県病院協会、兵庫県私立病院協会、兵庫県放射線技師会の3団体の後援のもとに開催され、10都府県から34名と、放射線研究会として前年度の約2倍の参加者があり、全体討議では地域医療を反映した熱のこもった意見が交換され有意義な研究会であった。

18. 全国臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和55年9月12日(金)～13日(土)

3. 開催地 岐阜市 岐阜大学医学部講堂

4. 参加者数 77施設 94名

5. 演 題

シンポジウム(1)

1) 緊急検査(その対応と整備)

① 諸法規から見た検査科の勤労体制

岐阜労働基準局地方労働基準監察監督官 安藤 政男

② 現に二次、三次救急体制を行っている検査科

聖隷浜松病院検査技師長 宇佐見元幸

名古屋掖済会病院検査技師長 森 芳夫

③ これから二次、三次救急を実施する立場の検査科の諸問題

東京都済生会中央病院検査技師長 坂内 英明

④ アメリカにおける救急（緊急）検査の現状

日本大学臨床病理学教授 河野 均也

シンポジウム(2)

技師長、主任の業務（管理運営とリーダーシップ）

① 病院管理から見た技師長、主任の業務 国立甲府病院院長 三宅 史郎

② リーダーシップと相互理解 昭和大学病院検査技師長 平沢 政人

③ 検査科業務の把握とその方法

岐阜県立多治見病院検査技師長 岸 正弘

④ 技師長業務の現状と問題点 社会保険中京病院検査技師長 稲生 富三

3) 上記テーマのグループ討議

4) 特別講演

臨床検査室の防災対策（震災対策を中心にして）

日本赤十字社医療センター外科副部長 高橋 有二
中央防災会議専門委員

5) まとめ

日本大学臨床病理学教授 河野 均也

6. 総 評

岐阜県病院協会（会長 藤掛敏）、岐阜県臨床衛生検査技師会（会長 大橋繁夫）の大変なご協力により、参加者も19都府県から100名近く集り会場もグループ討議の時は本会場（岐阜大学部講堂）の他に岐阜県婦人会館を使用、二会場になったが運営面では何ら支障もなく予定通り進められたのは両後援団体のご協力のおかげと思う。

参加者も最近ではこの研究会としては最高的人数で、大変盛会裡のうちに終了した。

19. 全国図書室研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和55年8月23日(土)～24日(日)

3. 開催地 東京都 東京都養育院附属病院

4. 参加者数 69施設 97名

5. 演 題

- 1) 「老年病学とは」 東京警察病院長 吉川 政己
- 2) 「医学文献の探し方ー老年学文献の効果的な探し方」
東京都養育院附属病院図書室 後藤 久夫
- 3) 「看護文献の探し方ー主要二次資料の比較検討」
日本看護協会図書館 田中 澄子
小田ひろ子
- 4) 「看護関係雑誌記事索引ー作成の立場から」
日本看護協会図書館 柳林 栄子
- 5) 「日本看護協会と図書館活動」 日本看護協会図書館 山添 美代

6. 総 評

今回は、メインテーマを「医学・看護学文献の探し方」と題し東京都で行なわれた。

医学・看護学文献の探し方という実務面に着目した講演内容であり、病院図書室関係者のみならず、看護婦、病歴室、はたまた看護学校の教官にいたるまで幅広い職種の参加者を見、皆、熱心に傾聴していた。また、今回は特に日本看護協会の方達の日頃の成果を発表していただき研究会を盛り上げた。当研究会で得たものを今後の病院図書室の充実・発展のため役立てていくものと思われる。

第9. 第一線リーダー研修会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

1) 第1回(6日間コース)

- 1) 期 日 6月22日(日)～27日(金)
- 2) 開催地 熱海市・湯河原厚生年金会館
- 3) 参加者数 12名
- 4) 演 題 ① 組織と監督者 ② 仕事の管理
③ 仕事の改善 ④ 部下の研修
⑤ リーダーシップ ⑥ 事例研究

2) 第2回(3日間コース)

- 1) 期 日 11月13日(木)～15日(土)
- 2) 開催地 鎌倉市・日本学生会館
- 3) 参加者数 18名
- 4) 演 題 第1回と同じ

3) 第3回(3日間コース)

- 1) 期 日 2月19日(木)～21日(土)
- 2) 開催地 京都市・京都府立勤労会館
- 3) 参加者数 33名
- 4) 演 題 第1回と同じ

3. 総 評

昭和40年6月に人事院方式による病院監督者研修会として、発足した本研修会は15年を迎え、各病院の第一線リーダーとして実務に対する、理解・認識を深めることを目的として研修を行っているが、本年度は参加者の減少が目立ち、今後の検討課題となっている。

また、本年度は、東京開催(3日間コース)を鎌倉に移し、合宿制を取り入れ、研修の実をあげた。

第10. 病院管理視察研究会

1. 開催地 京都府・大阪府
2. 開催期日 昭和55年10月24日(金)～25日(土)
3. 視察病院
 - 1) 京都第二赤十字病院救命救急センター
 - 2) 京都木津川病院
 - 3) 新千里病院
 - 4) 総合病院南大阪病院
4. 総 評 国際病院連盟のスタディツアーに範をとってわが国の病院の見学研究会を行なうようになって今年でちょうど20年を迎えた。今年から日程を1泊2日に短縮したので、参加しやすくなったのか、定員いっぱいの50名の参加者を得て、久しぶり賑やかな研究会となった。
京都第二赤十字救命救急センターは病院の救命救急センターの草分け的な存在で全国の救命救急センターに及ぼしている影響ははかり知れない。
京都木津川病院は京都市と奈良市の中間に位置する城陽市に開設された医療法人病院で、地域社会に根ざした医療をとる院長の方針でセミオープンシステムを採用している。
千里ニュータウンの医療の中心として活躍しているのが新千里病院である。千里保険医療会館が併設され、包括医療の一大センターとなっている。総合病院南大阪病院は30年の歴史を有する大阪市南部屈指の大病院である。看護と臨床検査の専門学校である南大阪学園を経営、新しい充実した教育を行なっている。

第 11. 病院幹部医会

総 会

第 1 回総会

- ✓ 6月8日(日) 富山市 第一生命ビル
1. 病院幹部医会規約(案)承認に関する件
 2. 病院幹部医会役員選出に関する件

第 2 回総会

- 2月21日(土) 東京都 富士通(株)情報処理システムラボラトリ
1. 病院幹部医会規約改正(案)に関する件
 2. 昭和56年度事業計画(案)に関する件
 3. 昭和56年度収支予算(案)に関する件

幹事会

第 1 回幹事会

- ✓ 6月8日(日) 富山市 第一生命ビル
1. 病院幹部医会設立総会ならびに記念シンポジウム開催打合わせに関する件
 2. 活動内容・対象と年間活動計画に関する件
 3. 会の幹事の選任と担当業務分担に関する件

第 2 回幹事会

- ✓ 1月20日(火) 日本病院会会議室
1. 病院幹部医会規約改正(案)に関する件
 2. 昭和56年度事業計画(案)に関する件
 3. 昭和56年度収支予算(案)に関する件

常任幹事会

第 1 回常任幹事会

- 9月10日(水) 日本病院会会議室
1. 病院幹部医会規約一部変更要請に関する件
 2. 会長後任人事に関する件
 3. 研究会開催に関する件

第2回常任幹事会

10月16日(木) 日本病院会会議室

1. 書面審理実施報告について
2. 病院幹部医会規約の整備に関する件
3. 病院幹部医会規約細則に関する件
4. 病院幹部医セミナー開催に関する件

第3回常任幹事会

11月11日(火) 日本病院会会議室

1. 病院幹部医セミナー開催に関する件

総 評

昨年度、勤務医対策委員会では、これからの病院医療を考える場合に忘れてはならない重要な課題として、開業医を上回る伸び率で増加する病院勤務医対策について検討した。

そのようななかから、病院内の施策の担当責任者としての副院長、部・科長、医長を会員とし、その会員を核とした病院幹部医師相互の自己研鑽を図り日本病院会の事業として、わが国の医療の向上発展と社会の福祉増進に寄与することを目的とする病院幹部医会設立構想が生まれ、6月設立総会、明けて2月に第2回総会が開催された。

現在、会員は50名。

事業活動は、主として①病院幹部医セミナーの開催、②病院幹部医会役員を核とする、全国各地域でのa.病院の管理運営、b.病院診療の質の評価、c.各診療科の連携、d.地域医療圏の形成等病院共通の諸問題_{（管理、質）}についての研究会開催の企画立案である。

来年度は、会員組織の拡大を図り、さらなる飛躍を期している。

第 12. セミナー

1. 病院長セミナー

1. 開催回数 1 回
2. 開催期日 昭和 55 年 11 月 21 日(金)～22 日(土)
3. 開催地 東京都千代田区 ダイヤモンドホテル
4. 参加者数 28 名
5. 演 題
 - 1) 世界の中の日本
 - 2) 日本の安全と防衛
 - 3) 高令化社会とわが国の人口問題
 - 4) わが国の代替エネルギー対策について
 - 5) 鈴木政治の実体について
 - 6) 仏教と医道

6. 総 評

参加者は北は秋田、南は大分からと各地から参集され、それぞれ啓発されたものがあったとの参加者の言葉があった。第 1 日目夜の懇親会では「初めて参加したが、大変為になった」という発言もあったが、企画の詰めの段階で事務局担当者の交替等があり、事前 PR が十分に行なわれなかった面があり、今後の開催では期日、参加費など再考することが課題として残された。

2. 病院幹部医セミナー

1. 開催回数 1 回
2. 開催期日 昭和 56 年 2 月 21 日(土)～22 日(日)
3. 開催地 東京都 富士通(株)情報処理システムラボラトリ
4. 参加者数 28 施設 29 名
5. 演 題
 - 1) 「人工衛星を利用したリモートセンシング技術」
 - 2) 「日本の病院における情報処理の動向」
 - 3) 「日本の医療費を考える」
 - 4) 「病院勤務医の将来像」

6. 総 評

従来、「副院長等管理者セミナー」と題し開催されていたセミナーを、継承発展させる観点から、今年度以降、病院幹部医会に企画・運営が委ねられた。

従って、開催に際しては病院幹部医会がとりくんでいる病院の管理運営、病院診療の質の

評価等の問題にそったテーマの選択、病院幹部医師相互の交流を図る意味からセミナー全体のほぼ2分の1を質疑応答時間にあて、さらに懇親会を催した。

第1回ということもあり、セミナーの内容に比し参加者が少なかったが、終了後、短期日に情報処理、医療費、病院勤務医問題に精通したこと等、極めて意義あるセミナーであったとの声が届いている。

3. 事務長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和56年2月20日(金)～21日(土)
3. 開催地 東京都 東京トラック事業健保会館
4. 参加者数 72施設 84名
5. 演 題
 - 1) コンピュータ20年の経験－後続者へのアドバイス
 - 2) 病院における搬送設備は有用か、その調査と資料
 - 3) 病院経営の信念と実践
 - 4) 新しい中央補給部構想
 - 5) 経営危機克服の経験
 - 6) 赤字からの浮上病院の実例
 - 7) 大規模ソーラーシステムを実施して
 - 8) シンポジウム「病院危機の現状分析と予測」

6. 総 評

昭和45年から毎年開催して今回11回目となり、参加者には常連の顔も多くみえ、84名と盛況裡に開催できた。

講演は経営関連のテーマのものと事務部門個有のテーマのものに大別され、それぞれに参加者の熱心さが目立った。

4. 総婦長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和55年8月21日(木)～22日(金)
3. 開催地 東京都 番町共済会館
4. 参加者数 110施設 206名
5. 演 題
 - 1) 看護業務と法的責任 弁護士・慶応大学講師 饗庭 忠男
 - 2) 高令化社会をめぐるさまざまな問題

NHK科学産業番組班チーフ・ディレクター 行天 良雄

3) 平安時代の母親像（蜻蛉日記を中心に）

独協大学教授 河北 騰

4) 老人看護について

東京老人総合研究所看護学研究室研究員 鎌田ケイ子

5) 筑波大学附属病院におけるPPC方式

筑波大学附属病院看護部長 赤岡 茂子

6. 総 評

年1回のこのセミナーは年々参加者も増加しつつあるが、今年度は200名を越し、参加県も北海道、東北地区、関東地区、中部、近畿、中国、九州と25都道府県から集まり盛会裡に終了した。

5. 労務管理セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和55年6月14日(土)
3. 開催地 東京都 番町共済会館
4. 参加者数 59病院 101名
5. 演 題
 - 1) 就業規則の欠陥からおきたトラブルの実例
 - 2) 看護組織の活性化
 - 3) 労働組合のない病院の労務管理を考える
 - 4) これからの職場管理のあり方 ——シンポジウム——

6. 総 評

アンケート結果より

「現に悩まれている問題、又本セミナーにとりあげてもらいたい問題」

- 院内世論操作
- 就業規則の見直しの統編
- 医業における労働分配率
- 病院職員の定員制の合理的算定
- 病院における医師の位置づけ
- 診療部門と他部門との連携について
- 看護婦の意識向上
- 私的病院における准看の扱い
- 労働組合とのトラブル例対策等

6. 栄養セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和55年6月17日(火)
3. 開催地 東京都 安田火災海上保険㈱
4. 参加者数 76施設 93名
5. 演題
 - 1) 「カウンセリングとその技術」
 - 2) 「当院の栄養指導」
 - 3) 「カウンセリングと栄養指導のつながり」
 - 4) 「Q and A」

6. 総評

患者心理を充分理解したうえでなければ栄養指導の効果はあがらない、という体験をもつ栄養士は多いのではないだろうか。

そのような観点から、「患者心理と栄養カウンセリング」を主テーマにセミナーを開催した。

単なる講義ではなく、ケース・スタディをとり入れた内容に予想以上の参加者を呼び、好評を博した。

昨年度のセミナーも充実したテーマ・会場で1泊2日にわたって開催を企画したが、経費節減をはかる意味からダイレクトメールを廃し、雑誌・ニュースによって開催を予告したこともあり、ほとんどの栄養士が開催間近になっても知らず、その結果、電話によって各委員が参加者を勧誘した。

いかに、案内が重要であるかを痛感させられた。

7. 放射線技師監督者セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和55年10月23日(木)～25日(土)
3. 開催地 静岡県 湯河原厚生年金会館
4. 参加者数 21施設 24名
5. 演題
 - 1) 3分間スピーチ
指導 東京都立墨東病院放射線科技師長 妹尾 昭一
指導 聖マリアンナ医大東横病院放射線室長補佐 川添 修身
 - 2) 医用画像診断の現況
関東通信病院第二放射線科部長 蜂屋 順一

- 3) 好ましい監督者のありかた 北品川総合病院理事長 河野 稔
- 4) 開発途上国における医療事情（カンボジア難民医療班に参加して）
佼成病院放射線科部長 西田 義夫
- 5) 管理者の役割演技（全体討議）
指導 日本航空中央研究所主任教官 中村多計司
- 6) 病院経済の現状と見通し
厚生省病院管理研究所経営部長 石原 信吾
- 7) 業務統計の諸問題（全体討議）
- 8) 事例研究
指導 J S T研修指導員・佼成病院放射線科技師長 神田 幸助
- 9) 5分間感想文

6. 総 評

参加者は秋田、山形、茨城、埼玉、東京、神奈川、静岡、京都、大阪、兵庫、福岡と11都府県から集まり、昼は研究会、夜は深夜までグループ討議を重ね3日間、最大限に時間を使い、かなりの成果を揚げた。最後の5分間感想では肉体的にはかなり疲れたが、この3日間で大変な勉強をし、なにもものにも変えられない収穫があったとの声が大多数であった。

8. 臨床検査管理セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和56年2月6日(金)～7日(土)
3. 開催地 静岡県 湯河原厚生年金会館
4. 参加者数 46施設 55名
5. 演 題
 - 1) 医療組織とサービス 日本大学附属板橋病院事務長 平野 栄次
 - 2) 検査室の経済管理 東京都済生会中央病院事務長 黒田 幸男
 - 3) リーダーシップのあり方
J S T研修指導員・昭和大学附属病院検査技師長 平沢 政人
 - 4) 上記3テーマのグループ討議
 - 5) 上記3テーマの全体討議

6. 総 評

18都府県から55名と前年度より3名多く、第1日は「医療組織とサービス」「検査室の経済管理」「リーダーシップのあり方」の3テーマを3講師より講演していただき、夜は懇親会、グループ討議と続き、第2日は前夜に続きグループ討議、発表、全体討議をして2日間の日程を終了した。

参加者一同大変熱心に研究課題に取り組み、参加者の大多数の方が是非56年度も参加したいとの声が多かっただけに、このセミナーの56年度中止は残念でならない。

9. 病院システム化セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 5月16日(金)
3. 開催地 東京都 日本離島センター
4. 参加者数 25施設 39名
5. 演 題 病院業務の機能化への対応
6. 総 評

病院コンピュータを導入する際の種々の問題点をコンピュータメーカーの持つ情報を取り入れ、スムーズな導入ができるよう研究した。

10. 医事紛争防止のためのセミナー

1. 開催回数 3回
2. 開催期日 (第1回) 昭和55年5月9日(金)～10日(土)
(第2回) 昭和55年9月19日(金)～20日(土)
(第3回) 昭和56年2月19日(木)～20日(金)
3. 開催地 (第1回) 京都市 京都府医師会館
(第2回) 名古屋市 名古屋第一赤十字病院
(第3回) 神戸市 兵庫県私立病院協会神戸看護専門学校
4. 参加者数 (第1回) 70病院 136名(看護婦対象)
(第2回) 57病院 115名(看護婦対象)
(第3回) 41病院 63名(一般対象)
5. 演 題
(第1回)
 - 1) 病院と医療紛争
 - 2) 医事紛争と病院倫理
 - 3) 日常用いられる医薬品の副作用
 - 4) 病める人との対話
 - 5) 医療紛争防止のためのチェックポイント
 - 6) 日常業務の中で起こった医療紛争の事例－患者の対応の仕方の上手な事例・下手な事例

7) 医療紛争と看護倫理

8) 救急看護の方向

(第2回)

1) 病院と医療紛争

2) 日常用いられる医薬品の副作用

3) 病める人へのちょっとした心づかいと話し方

4) 医療紛争の現状とその対策

5) 医療紛争と病院倫理

6) 救急看護の方向

7) 医療と看護の接点

8) 看護倫理と医療紛争

9) 実例からみた医療紛争

10) 医療紛争に対する2、3の所見

(第3回)

1) 病院と医事紛争

2) 医の倫理について－日本病院会の病院倫理綱領によせて－

3) 法医学よりみた医療事故

4) 医事紛争に関する具体例とその対策

5) 看護倫理と看護業務を考える－よい看護をするために－

6) 薬剤過誤について

7) 最近の世相と医療紛争

第 13. 診療録管理通信教育

1. 入学状況

- 第17期生入学
 - 1) 開講月日 昭和 55 年 7 月 1 日
 - 2) 入学者数 81 名 (但し、1 名 2 年次編入)
 - 3) 受講料 46,000 円 (年間)
- 第18期生入学
 - 1) 開講月日 昭和 56 年 1 月 1 日
 - 2) 入学者数 100 名 (但し、29 名 2 年次編入)
 - 3) 受講料 54,000 円 (年間)

2. 卒業状況

- 第12期生卒業
 - 1) 卒業生数 33 名 (男 7 名、女 26 名)
 - 2) 卒業式典 昭和 55 年 5 月 10 日(土)
 - 3) 同上会場 番町共済会館 菊
- 第13期生卒業
 - 1) 卒業生数 33 名 (男 9 名、女 24 名)
 - 2) 卒業式典 昭和 55 年 10 月 18 日(土)
 - 3) 同上会場 番町共済会館 菊
- 第14期生卒業
 - 1) 卒業生数 36 名 (男 5 名、女 31 名)
 - 2) 卒業式典 昭和 56 年 3 月 28 日(土)
 - 3) 同上会場 ダイヤモンドホテル

3. 受講生員数状況

- 入学者総数 1,468 名 (1～18 期) (但し、2 年次編入生 67 名)
- 卒業生総数 506 名 (1～13 期)
- 受講生総数 425 名 (56. 1. 17 現在)

内訳	第 14 期生	62 名	第 17 期生	81 名
	第 15 期生	57 名	第 18 期生	100 名
	第 16 期生	125 名	合計	425 名
	第一年次生	255 名		
	第二年次生	170 名	合計	425 名

4. 集中スクーリング実施状況

基礎科目スクーリング			試 験	専門科目スクーリング		
第16・17期生			第13・15期生	第14・15期生 第16期生の内2年次編入者		
21日 (木)	22日 (金)	23日 (土)	24日 (日)	25日 (月)	26日 (火)	27日 (水)

東京地区	佼成看護専門学校	436名	(延数)
大阪地区	大阪府中小企業文化会館	253名	
福岡地区	福岡大学医学部	80名	
計		769名	

基礎科目スクーリング			試 験	専門・関連科目スクーリング		
第17・18期生			第14・16期生	第15・16期生 第17・18期生の内2年次編入者		
19日 (木)	20日 (金)	21日 (土)	22日 (日)	23日 (月)	24日 (火)	25日 (水)

東京地区	早稲田速記学校	509名	(延数)
大阪地区	大阪府中小企業文化会館 (試験会場は日生看護専門学校)	268名	
福岡地区	福岡大学医学部	98名	
計		875名	

5. 医学セミナー実施状況

①	55. 4. 19	統計学Ⅰ	日本病院会会議室	16名
②	55. 4. 26	生理学Ⅰ	〃	5名
③	55. 5. 10	統計学Ⅱ	〃	12名
④	55. 5. 24	生理学Ⅱ	〃	2名
⑤	55. 6. 14	統計学Ⅲ	〃	13名
⑥	55. 6. 28	産科学Ⅰ	〃	8名
⑦	55. 7. 19	産科学Ⅱ	〃	6名
⑧	55. 9. 13	小児科学Ⅰ	〃	11名
⑨	55. 10. 18	小児科学Ⅱ	〃	5名
⑩	55. 11. 29	分類法Ⅰ	〃	22名
⑪	55. 12. 20	分類法Ⅱ	〃	7名
⑫	56. 1. 24	品質管理	〃	6名
⑬	56. 3. 14	情報管理Ⅰ	〃	9名

なお、メディカル・クラーク通信教育と合同の医学セミナーについては、その項参照のこと。

第 14. メディカルクラーク通信教育

1. 第 4 回認定証授与式

- 10月11日(土) 17:00~19:00 認定者 51名
会 場 : ダイヤモンドホテル 十和田・黄金の間
- 追加認定 3月10日 認定者 15名

2. 試 験

- 第 4 期生後期試験 (8月22日)
東京会場 (早稲田速記学校) 27名
近畿会場 (京都ビル葆光) 25名
- 第 5 期生前期試験 (追試を含む) (56年2月14日)
東京会場 (早稲田速記学校) 50名 (追試1)
近畿会場 (京都ビル葆光) 39名 (追試4)
- 甲府MS学院認定試験 (2月11日及び15日) 10名

3. スクーリング (第 5 期生)

1) 前期スクーリング (8/19~8/25)

	8/19(水)	8/20(木)	8/21(金)	8/23(日)	8/24(月)	8/25(火)
出 席	延 195名			延 128名		
会 場	東京: 早稲田速記学校			京都: ビル葆光		

2) 後期スクーリング (2/11~2/17)

	2/11(水)	2/12(木)	2/13(金)	2/15(日)	2/16(月)	2/17(火)
出 席	延 102名			延 164名		
会 場	京都: 関西セミナーハウス			東京: 早稲田速記学校		

4. 医学セミナー（メディカル、診療録の合計）

月 日	会 場	テ ー マ	出席者数
55. 4. 12	日本病院会第2会議室	医 療 事 務 その1	9名
5. 17	”	” その2	9名
6. 21	”	” その3	3名
7. 26	”	医学用語学 その1	32名
9. 27	”	” その2	19名
10. 25	”	” その3	22名
11. 15	”	内 科 学 その1	15名
12. 13	”	” その2	10名
56. 1. 17	”	” その3	5名
3. 28	”	” その4	5名

第 15. 事務長養成課程通信教育

1. 第 1 回認定証授与式

7 月 19 日(土) 13 名 於 東京・半蔵門会館

2. 第 3 回生開講式

7 月 7 日(月) 17 名 於 聖路加第二記念館

3. 第 2 回生第 2 年次始め

7 月 14 日(月) 8 名 於 聖路加第二記念館

4. 試 験

1) 第 1 回生最終試験 (6.14)

湯河原厚生年金会館

受験者 : 13 名

合格者 : 13 名

2) 第 2 回生第 1 年次後期試験 (7.13)

聖路加第二記念館

受験者 : 6 名

合格者 : 5 名

再 試 : 1 名

3) 第 2 回生第 2 年次前期試験 (56.1.11)

聖路加第二記念館

受験者 : 6 名

合格者 : 5 名

再 試 : 1 名

4) 第 3 回生第 1 年次前期試験 (56.1.18)

聖路加第二記念館

受験者 : 12 名

合格者 : 8 名

再 試 : 4 名

5. スクーリング

1) 前期スクーリング (7/7~7/19)

	第 2 回 生						第 3 回 生					
月日	7/14 (月)	15 (火)	16 (水)	17 (木)	18 (金)	19 (土)	7/7 (月)	8 (火)	9 (水)	10 (木)	11 (金)	12 (土)
出席	延 48 名						延 101 名					
会場	聖 路 加 第 二 記 念 館											

2) 後期スクーリング (1/12~1/24)

	第 2 回 生						第 3 回 生					
月日	1/12 (月)	13 (火)	14 (水)	15 (木)	16 (金)	17 (土)	1/19 (月)	20 (火)	21 (水)	22 (木)	23 (金)	24 (土)
出席	延 42 名						延 87 名					
会場	聖 路 加 第 二 記 念 館											

第 16. 海外病院視察研究会

1. A H F 学会参加と台湾病院視察

6月1日(日)～6月5日(木) 5日間

台北、林口、梧棲、台中、台南、高雄

参加者 6名

2. 中国病院医療視察

7月16日(水)～7月27日(日) 12日間

北京、瀋陽、哈爾濱、長春、大連

参加者 22名

3. パリ・ヨーロッパ病院医療視察

7月19日(土)～7月31日(木) 13日間

ブリュッセル、ウィーン、ローマ、チューリッヒ、
グリンデルワルド、ユングフラウヨッホ、パリ

参加者 16名

4. 米国看護事情視察

8月6日(水)～8月16日(土) 11日間

ニューヨーク、ボストン、セントルイス、カンサス
シティー、シカゴ、エルジン

参加者 18名

5. スイス・ヨーロッパ病院医療視察

10月11日(土)～10月23日(木) 13日間

ブリュッセル、ストックホルム、コペンハーゲン、
アムステルダム、ジュネーブ、ロンドン

参加者 17名

6. 米国チェーン・ホスピタル医療視察

11月8日(土)～11月17日(月) 10日間

ニューヨーク、シカゴ、ナッシュビル、ダラス、フ
ェニックス、サンフランシスコ

参加者 12名

第 17. 調 査 室

本年度の活動として、第一に昭和54年度の調査を「病院概況・収益費用調査報告書」としてまとめたことである。これは53年度の調査に、収益費用関係の調査を含めたもので幅広い活用が期待できる。第二には、昭和55年度の調査を実施したことである。これは54年度調査に労働条件関係を含めたもので発表は56年秋頃の予定である。

第18. 病院大会

1. 名 称 病院医療危機突破全国大会
2. 開催日時 昭和56年2月17日(火) 午後2時～4時
3. 開催場所 笹川記念会館
東京都港区三田3丁目12番12号
4. 主 催 社団法人 日本病院会
5. 協 賛 全国公私病院連盟、全国自治体病院協議会、日本医療法人協会、日本看護協会、日本病院薬剤師会、日本栄養士会、日本放射線技師会、日本臨床衛生検査技師会、日本作業療法士協会、日本理学療法士協会、日本病院会政治連盟
6. 来 賓 日本医師会、日本栄養士会、日本病院薬剤師会、日本看護協会、国会議員95名
7. 参加人員 800名
8. 次 第
 1. 開会あいさつ
 2. 議長団選出
 3. 会長あいさつ
 4. 協賛団体紹介
 5. 来賓祝辞
 6. 祝電披露
 7. 報 告
 8. 各地代表意見
 9. 大会宣言決議
 10. 陳情団編成
 11. 陳情団代表あいさつ
 12. 閉会あいさつ
9. 陳情先 厚生省
大蔵省
日本医師会
中央社会保険医療協議会

〔総評〕

当日は朝から雪の降る悪天候にもかかわらず、全国から一般参加者800名、国会議員95名、日本医師会などからの来賓、その他関係者などあわせて約1,000名が参集した。

大会は、演壇後方に「入院料を中心に医療費の大幅引上げの即時実施」など5本のスローガンの掲げられる中で、内藤大会長のあいさつ、11の協賛団体の紹介、日本医師会、国会議員などの来賓のあいさつが行われた。

つづいて、大会決議（別掲）を満場一致で採択するとともに、陳情団を結成し、「診療報酬改定促進の請願書」などをたずさえ、厚生省（13,000名署名の改定要請書手渡し）、大蔵省、中医協、日医などへ陳情を行なった。

第 19. 第 6 回日本病院学会

1. 開催期日 6月6日(金)～8日(土)
2. 開催地 富山市
3. 会場 富山県民会館
4. 学会長 富山県立中央病院長 村田 勇
5. テーマ 現代医療の実像と未来への指向
6. 演 題
特別講演 3題
シンポジウム 2題
教育講演 4題
一般演題 201題
7. 参加者 約2,000名
8. プログラム 次ページのとおり

第 6 回 日

時刻 期日 \ 会場		8	9	10	11	12	13	
第 一 日 (六月六日)	第一会場		受 付	開 会 式	特 別 講 演 (山村雄一)	医療の臨床的研究 ⑪ (1~11)	病院管理 I ⑤(12~16)	(評議員会)
	第二会場				病院経営 ⑤ (30~34)	看 護 I ⑩ (35~44)	休 憩	
	第三会場				薬 劑 ⑪ (56~66)	検 査 診 断 I ④ (67~70)		
	展 示 場	ホ ス ピ タ						
第 二 日 (六月七日)	第一会場	受 付	放 射 線 ・ R I ⑰ (81~97)		医療の基礎的研究 ③ (98~100)	特 別 講 演 (永井道雄)	休 憩	
	第二会場		給 食 ・ 栄 養 ⑳ (101~120)		/			
	第三会場		救急医療 ⑥ (121~126)	地 域 医 療 ⑱ (127~142)		/		
	展 示 場	ホ ス ピ タ ル						
第 三 日 (六月八日)	第一会場	受 付	看 護 III ⑯ (143~158)		教 育 講 演 (大森文子)	開 会 式	/	
	第二会場		事 務 管 理 ⑭ (159~172)		施 設 管 理 ⑪ (173~183)			
	第三会場		情 報 管 理 ⑮ (184~198)		病 庄 管 理 ③ (199~201)	/		
	展 示 場	ホ ス ピ タ ル シ ョ ー						

病院学会日程

第1会場－富山県民会館ホール
 第2会場－富山県農協会館ホール
 第3会場－富山県農協会館研修室

15		16		17		18		19		20	
管理Ⅱ (17～29)		シンポジウム (病院医療の現状とその未来像)				医療人の集い		第一生命ビルホール			
看護Ⅱ (45～55)											
診断Ⅱ (1～80)											
シ		ョ		ー							
(映画) 小さな 生命の ために	特別講演 (有地 滋)	シンポジウム (救急医療の問題点とビジョン)				教育講演 (竹中栄一)		商工会議所ビルホール			
						教育講演 (松田静治)		福祉会館ホール			
						教育講演 (阿部達夫)		朝日生命ビルホール			
シ		ョ		ー							

第20. 第21回人間ドック学会

学会長 二本杉 皎（大阪赤十字病院院長）

期 日 8月21日(木)～22日(金)

開催地 大阪市・大阪赤十字会館

（特別講演）

① 脳卒中とC.T.

京都大学医学部老年科教授 亀山 正 邦

② 肥満臨床の新しいアプローチ

神戸大学医学部内科教授 馬場 茂 明

③ 臨床計測の評価と撰択

大阪大学医学部第一内科教授 阿部 裕

（シンポジウム）

老令者の検診の問題点

司会 京都第二赤十字病院副院長 小関 忠 尚

① 循環器領域

大阪赤十字病院内科部長 柏井 忠治郎

② 糖尿病

大阪府立成人病センター精密健康診断所長 堀内 成 人

大阪府立成人病センター調査部調査課長 佐々木 陽

③ 消化器領域

京都大学医学部第一内科助教授 三宅 健 夫

④ 呼吸器領域

近畿中央病院外科部長 沢村 献 児

⑤ 整形外科領域

大阪医科大学整形外科教授 小野村 敏 信

（一般演題）

当院外来ドックにおけるHBs抗原について

京都第一赤十字病院 他30題

参加人員 166名

第 21. 第 4 回日本診療録管理学会

1. 学 会 長 藤野 肇策 (県立ガンセンター新潟病院 部長)
2. 期 日 昭和 55 年 6 月 4 日 (水) ~ 5 日 (木)
3. 会 場 新潟東映ホテル
4. 参加者数 516 名

内訳 (職種別参加人数)

医 師	111 人
病 歴 管 理 室	170 人
医 事 課	54 人
事 務	61 人
看 護 婦	39 人
放 技 ・ 検 査	22 人
そ の 他	35 人
不 明	24 人

(地域別参加人数)

北 海 道 ・ 東 北	49 人
東 京 都	90 人
他 関 東	71 人
新 潟 県	139 人
東 海 ・ 中 部	46 人
近 畿	65 人
中 四 国 ・ 九 州	56 人

5. 特別講演 2 題

「幕末・明治に来日したイギリス人医師の日本人病歴とその効用」 蒲 原 宏
「仕事への奉仕」 平 沢 興

6. シンポジウム 2 題

「診療録管理の普及のために」

座長 高 橋 政 祺
酒 井 隆 子

「診療録の活用」

座長 日野原 重 明

第 22. '80 国際 モダン ホスピタル ショウ

- テ ー マ : のびゆく医療住みよい社会
 ～ 80 年代とヘルスケア～
- 主 催 : 社団法人 日本病院会
 社団法人 日本経営協会
- 後 援 : 厚生省、通商産業省、外務省、建設省、東京都
 日本貿易振興会、日本医師会、社団法人 日本看護協会
- 協 賛 :
- | | |
|-------------------|---------------|
| 全日本ベッド工業会 | (社)日本電子機械工業会 |
| (社)日本冷凍食品協会 | (財)日本医療食協会 |
| (社)日本厨房機器工業会 | (社)日本病院建築協会 |
| 日本病院寝具協会 | 日本病院設備協会 |
| 日本放射線機器工業会 | 日本薬科機器協会 |
| (社)日本病院薬剤師会 | 日本自動販売機工業会 |
| (社)リース事業協会 | (財)日本医薬情報センター |
| 健康保険組合連合会 | フローレンス会 |
| 全国社会福祉協議会 | (社)日本消火器工業会 |
| (社)日本火災報知器工業会 | (社)日本消火装置工業会 |
| (社)全国消防機器協会 | 日本避難設備工業会 |
| (財)医療情報システム開発センター | |
- (順不同)
- 会 期 : 昭和 55 年 5 月 15 日(木)～ 18 日(日)
- 開 場 時 間 : 午前 10 時～午後 5 時
- 会 場 : 東京晴海・東京国際見本市会場
- 出 品 社 数 : 104 社
- 出 品 点 数 : 約 5,000 点
- 展 示 面 積 : 約 2,000 平方米
- 展 示 部 門 :
- | | |
|------------|-------------|
| 事務管理部門 | 医療情報システム部門 |
| 医療機械部門 | 医療材料部門 |
| 施設設備部門 | 防災部門 |
| 看護部門 | リハビリテーション部門 |
| 検査部門 | フード部門 |
| ハウスキーピング部門 | インテリア・照明部門 |

建築部門

調剤製剤機器部門

放射線機器部門

その他

開会挨拶
およびテープカット

： 社団法人 日本病院会会長 内藤景岳

財団法人 医療情報システム開発センター 理事長 大野松次

'80国際モダンホスピタルショウ 実行委員 大野松次

社団法人 日本経営協会理事長 竹内正治

入場者実績

： 第1日 5月15日(木) 21,500人

第2日 5月16日(金) 18,600人

第3日 5月17日(土) 27,700人

第4日 5月18日(日) 13,500人

合計 81,300人

特別事業

： (1) 手術室関連特別コーナー

(2) 災害時用非常備蓄食品コーナー

(3) 老人医療と福祉コーナー

(4) 病院情報システムコーナー

(5) 全国看護リーダーの集い

付帯事業

： (1) 看護用品改善工夫紹介コーナー

(2) 看護業務特別教育コーナー

(3) 起震車の会場派遣

(4) 病院における身近なシステム化パネルコーナー

(5) 医療関係図書コーナー

(6) 血圧計の正しい使い方コーナー

(7) 献血コーナー

(8) 入場者調査

同時開催事業

： 第32回病院システム化セミナー

参加者 50名

要 望 書

平素貴職におかれましては病院管理運営に深いご理解とご指導を頂き厚くお礼申し上げます。

このたび日本病院会全理事会においては当面の医療問題について次の如く意見をまとめましたので格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

一、今国会に提出されている健保法改正政府案は財政赤字を患者負担の拡大によって（受診抑制）解消しようとするものであり、特に入院時一部負担の著しい増額については承服できない。尚低所得層に対しては自己負担を免除するよう考慮されたい。

二、最近のエネルギー関係費・公共料金を始め物価・人件費の高騰に加えて金融引締め、金利引き上げ等により病院経営は極めて逼迫し、今後の病院運営の見通しができない状況にある。そこで健全なる医療を期待するためには医療原価を補償しなければならない。

特に入院時医学管理料、薬料、看護料、給食料、寝具料等については物価の上昇に応じて原価を補償するよう取計られたい。それによって差額ベット料、付添看護料は自然に解決できるものである。

三、昭和五十三年五月二日、日本病院会は診療報酬、特に入院部門の診療報酬について速やかな改訂措置をとられるよう資料を添えて要望したところであるが、今日に到るも全く実施されないことは誠に遺憾であるので、早急にその善処方を強く要望する。

昭和五十五年四月十九日

社団法人 日本病院会

会 長 内藤 景岳

【診療録管理料新設についての要望】

近年、医学はますます高度化し、診療録に記録される医学的知見ないし記録はきわめて精緻となり、量的にも増加の一途をたどっています。これらの膨大な医学的情報を合理的な方法で常に収集し、検索可能な状況下に管理し、患者とその疾患および診療経過の適確な把握と解析を通じて、より有効適切な診療の向上につとめることは、極めて重要であり、医療の原点でもあります。しかるに、わが国の多くの医療機関における診療録管理の体制は、このような医療の高度化に対応しうる状況になく、これはかかる管理体制に必要な診療録管理士等の配属および施設などに対する経済的な基盤を欠いていることに起因するものであります。

診療録管理体制の近代化は、医学技術の進歩向上を通じて患者診療の正確化・高度化に貢献するだけにとまらず、長期的視野から見れば、急増を続ける医療費の適正な使用を含めて効率的な医療システムの形成と医師の生涯教育の充実のためにも極めて重要であり、諸外国においては政府機関や医療機関がその機能の充実に努力しておりますが、わが国においてはこの点においても大きく立遅れている現状であります。

現在は医療保険制度の枠内で、個々の医療機関が経営面を度外視して診療録管理の充実に努力を続けていますが、そこには自ら限界があります。

ついでに、一定の基準を流たず診療録の管理を行う医療機関については、社会保険診療報酬の中で診療録管理料が認められるよう措置され、国民皆保険制度の下において、医学技術の進歩に立遅れない厳正かつ適切な国民医療を確保するための基盤整備の途を開かれるよう要望します。

昭和五十五年七月二十四日

社団法人日本病院会会長 内藤景岳

日本診療録管理学会会長 澤崎博次

昭和55年7月 日

殿

社団法人 日本病院会

会長 内 藤 景 岳

昭和56年度税制改正要望事項

わが国の病院経営は、極めて高い公益性を要請されている社会保険診療の診療報酬収入によって、維持運営されております。

しかしながら、その経営税制面にあつては、営利目的の商事法規の会社企業と同等に取扱われているばかりでなく、産業振興の政策目的に対する税制と比較して、必しも衝平な取扱いを受けているとは言い難い面もあります。国民の厚生福祉、医療の高度化とその発展を図かり、医療経営を安定充実させ、もってより一層の成果を期するため、昭和56年度の税制改正において、別紙事項の実現について格段のご配慮を要望いたします。

昭和56年度 税制改正要望事項

1. 国 税 関 係

(1) 所得税，法人税関係

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1) 剰余金の配当禁止されている医療法人について，協同組合等と同等の法人税率を適用すること。 | 法人税法第66条第3項 |
| 2) 医療用機器の取得価額の25%特別償却制度の適用期限を，昭和56年4月以降も引続き延長すること。 | 措置法第12条の3第2項
同法第45条の2第3項 |
| 3) 救急医療の緊急な拡充を図るため，救急医療準備金制度を創設すること。 | 措置法第20条第1項，同法第54条第1項，同法第55条第1項(方式を準用) |
| 4) 救急医療等の補助金については，前1年間取得の資産に対して圧縮記帳の損金処理を認められるようにすること。 | 措置法第37条第3項，同法第65条の7第3項(方式を準用) |
| 5) 病院用建物および建物附属設備について，法定耐用年数を短縮すること。 | 耐年省令別表第1 |
| 6) 医療保健業における緊急構造改善による近代化設備の整備拡充を図るため，産業転換設備等を取得した場合の取得価額10%相当額の税額控除対象業種に，医療保健業を指定す | 措置法第10条の2第1項第3
同法第42条の2第1項第3号 |

ること。

7) 特定の医療法人の承認申請に際し、現在の医療実施の一般水準に照らして、その承認要件を緩和すること。

行政指導取扱い内容

8) 措置法第40条の承認による贈与（遺贈も含む）がなかったものとみなされた財産提供については、特定の医療法人成立後も法人税を非課税とすること。

措置法第40条第1項

9) 非常勤医師の給与所得源泉徴収額は一率10%適用若しくは月額表甲欄扶養親族等の数0人の欄適用の特例を設けること。

所得税法第204条
第1項第2号（準用）
所得税法第185条
関係別表第5

(2) 相続税

1) 医療法人社団の出資持分について、相続税財産評価を、その非営利性、剰余金配当禁止に適合した払込済出資額とすること。

なお、その出資額評価方法を財産評価基本通達に独立条文として明記すること。

相・財評基通195

2) 医療法人社団の出資持分割合50%未満の出資者グループについては、同族会社等と同じく財産評価額の80%評価とすること。

相・財評基通188
(6)但し書

2. 地方税関係

(1) 事業税

1) 事業税の社会保険診療報酬外の課税標準額計算について、各都道府県に計算基準の相違が著しいため、合理的で簡易な東京都方式（収入による所得按分方式）をもって全国的に統一すること。

地方税法第72条の
14第1項
同法第72条の17
第1項

(2) 固定資産税

1) 医療保健業に対する全国各市町村の課税実態は、その軽減の有無、並びにその軽減の対象内容ともに不均一であるため、全国的に統一的な軽減措置を講ずること。

地方税法第6条第2
項

2) 救急病院等の救急医療用機器の課税標準価格5分の4に関する適用期限を、昭和56年4月以降も引続き延長すること。

地方税法附則第15
条第18項

昭和55年7月 日

殿

社団法人 日本病院会
会長 内 藤 景 岳

制度に関する要望事項

わが国の医療施設において、私的医療機関の占める比重は極めて大きなものがあります。

このうち、経営規模の大きい病院等にありましては、その正常な発展的再生産について、経営組織、運営資金の調達を含めて、法人組織による運営の選択は、不可避的な課題となりつつあります。

ここに、現下の情勢に鑑みまして、下記事項を要望申し上げます。

記

(1) 医療法第39条関係

医療法に基づく医療法人制度に関し、同法第39条の「医師若しくは歯科医師が常時3人以上勤務」という規定を削除し、病院、診療所ともに一定規模の施設、従事員の経営に対しては、法人組織を選択して医療保健業に従事し得るように、同法を改正されることを要望いたします。

(2) 医療法人設立認可関係

医療法人の設立認可に関し、その主務官庁は都道府県知事ですが、全国的にみてその行政基準について、医療の実情に照らし、かなりの難易の相違があります。

とくに、総資産の2分の1以上の出資若しくは寄附の財産・負債構成比率要件、医療従事員の2ヶ年間の法的充足要件、ならびに2ヶ年間の診療実績要件などを必須条件とする都道府県が多くなりつつあり、個人病院の法人化は、その設立機会を見い出せない実情にあります。

これらについて、必要以上に厳格な行政基準を設けることなく、本来の医療法人制度成立の趣旨に鑑み、弾力的に運営されるよう格別のご配慮を要請します。

決 議

国民医療を健全に確保するためには、近代医療の遂行に必要なとされる原価に対して診療報酬が適正に維持されることが必須の要件である。

現行診療報酬は昭和五十三年二月に過去の経営赤字の後追いの改定がされたもので、爾後今日に至る三カ年間は、物価・人件費は年毎に上昇するにも拘らず据置かれたままである。

我々が病院の経営危機を訴えるのは、昨年度三十九病院の倒産を身近に感じ、今年度以降の病院経営に危惧を持つからである。

今や病院人は公共的な責任を自覚し、医療の在り方を自粛し、国民医療に邁進せんとする決意を明らかにするものである。

当局は、医療が円滑に実施出来るようにすみやかに医療費の改定に邁進されたい。その為に、我々は次の事項を強力にかつ迅速に実施されんことを強く要求するものである。

記

- 一、入院料を中心に医療費の大幅引上げの即時実施
- 二、医療技術料に対し適正な診療報酬の設定
- 三、施設管理料・安全管理料の新設
- 四、病院税制の抜本的な改正
- 五、厚生大臣はすみやかに中医協に医療費是正の諮問案を提出すべきである。

右決議する。

昭和五十六年二月十七日

社団法人 日本病院会
病院医療危機突破全国大会

昭和56年2月20日

社団法人 日本病院会
会長 内藤景岳

省エネルギー設備投資税額控除制度における
業種指定に関する要望書

昭和56年4月の税制改正において、省エネルギー設備投資に類する中小企業者の新規取得についての税額控除制度が実施されますが、その指定業種に個人、医療法人ならびに民法第34条の公益法人が営む医療保健業を含められんことを要望いたします。

病院・診療所経営を主体とする医療保健業は、最近設備更新期に到来しているものが多く、省エネルギーに関する設備投資も多くなっておりますので、医療保健業指定について特別なお配慮をお願い申し上げます。

厚生大臣

園田 直 殿

社団法人 日本病院会

会長 内藤 景 岳

医療法の一部改正案について要望

都道府県医療計画の策定及び医療法人の指導監督規定等医療法一部改正については当会として次のように要望いたします。

記

1. 都道府県医療計画の作成について

近年いかなる体制の国においても国民医療の確保を図るための医療計画が進められており、わが国においてもすでにいくつかの地方自治体において医療計画の策定が試みられている。一方民間においても自主的にその努力がなされているところである。

また医療は多くの基盤の上で成っているものであるから医療計画は非常に難しい問題であるので、すでに行われている自治体・民間の成果を慎重に見究めたりえで法的規制に踏切っても遅くはないであろう。従ってこの問題については十分な時間をかけ、各団体の意見を徴して進めるべきである。

2. 医療法人の指導監督規定について

医療法人に関する現行法は解決すべき問題があることは否めないところであるが、他の法人制度との関連もあり、制度改正には慎重な配慮が望まれるところである。今回の改正の要点については、法律的にいくつかの疑義が生ずるおそれもあるので、十分な検討を重ねて進めるべきである。

日病会発第 648号

昭和56年3月31日

厚生大臣

園田 直 殿

社団法人 日本病院会

会長 内藤 景 岳

決議文の御送付について

拝啓 時下ますます御清祥のことと拝察大慶に存じます。

日頃医療行政につきましては、一方ならぬ御高配を賜わり、深く敬意を表するところであります。

さて、当会では、さる3月24日(火)開催の定時代議員会、総会において別紙のとおり決議いたしましたので御送付致します。

つきましては、決議の主旨を十分御理解いただき、この実現のため格段の御配慮をお願い申し上げます。

敬 具

決 議

昭和53年2月以降3カ年間、物価・人件費の上昇が続いているにもかかわらず、診療報酬は据置かれたままであるので、病院の財政は悪化の一途を辿り、もはや健全な病院機能を維持することが不可能な状況である。

よって、われわれは病院機能の崩壊を防ぎ国民の健全な医療を確保するため、次の事項が速やかに実現されることを強く要望するものである。

記

1. 診療報酬は過去3カ年の物価・人件費の上昇分を勘案して少なくとも15%以上上げること。
2. なお、診療報酬は物価・人件費の上昇にスライドして毎年改正すること。

右決議する。

昭和56年3月24日

社団法人 日本病院会
代 議 員 会
総 会

病院倫理綱領

日本病院会は、国民の医療を守るために、病院人が遵守すべき行動基準を病院倫理綱領として次の通り定める。

一、病院の使命

病院人は、傷病者のために限りなき愛情と責任をもつて最善の努力を払わねばならない。

二、研修・教育

病院人は、たゆみなき研修に励み、医師の錬磨と医道の高揚に努めることも、後進の教育に力を尽さねばならない。

三、医療記録の保管と守秘の義務

病院人は、傷病者の医療記録を完備し、これを確実に管理することにも、傷病者の秘密は正当な理由なくして漏洩してはならない。

四、地域社会への協力

病院人は、地域住民の疾病予防及び健康増進のために、他の機関と積極的に協力せねばならない。

五、病院の管理運営

病院人は、病院の管理運営にあたり、いたずらに利潤追求を目的としたり、放漫経営に流れて、病院の信頼を損うことがあつてはならない。

社団法人 日本病院会



社団法人 日本病院会役員名簿 (自昭和55年4月1日) (順不同)
至昭和58年3月31日

名	都府道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
長	大阪府	内藤 景岳	総合病院南大阪病院	医療法人	5 5 9	大阪市住之江区東加賀屋1-18-18	06-685-0221
				自宅	5 5 8	住吉区帝塚山中1-8-9	06-673-4130
長	長野県	若月 俊一	総合病院	厚生連	384-03	南佐久郡臼田町大字臼田197	02678-2-3131
				自宅	"	" 2211-2	02678-2-2045
東	京都	河野 稔	北品川総合病院	公益法人	1 4 0	品川区北品川1-23-19	03-474-0023
				自宅	1 5 0	渋谷区南平台4-8 アブアマンション207	03-463-2455
大	大阪府	吉岡 観八	新千里病院	"	5 6 5	吹田市津雲台1-1-D6	06-871-0121
				自宅	5 4 5	大阪市阿倍野区北島3-9-11	06-661-3877
富	山県	村田 勇	富山県立中央病院	都道府県	9 3 0	富山市西長江220	0764-24-1531
				自宅	"	" 暁町 県公舎	0764-21-7658
理	埼玉県	秋山 博	済生会川口総合病院	済生会	3 3 2	川口市西川口5-12-1	0482-53-1551
				自宅	3 3 6	浦和市本太3-16-8	0488-82-4358
"	"	池谷 亘	蕨市立病院	市町村	3 3 5	蕨市北町2-12-18	0484-32-2277
				自宅	1 6 7	杉並区南荻窪1-7-11	03-334-5318
千	葉県	諸橋 芳夫	国保旭中央病院	"	289-25	旭市イ-1326	04796-3-8111
				自宅	"	" イ-1863	04796-2-0368
"	"	渡辺 進	成田赤十字病院	日 赤	2 8 6	成田市飯田町90-1	0476-22-2311
				自宅	3 3 6	浦和市前地町2-11-8	0488-85-7633
東	京都	堀内 光	東京都済生会中央病院	済生会	1 0 8	港区三田1-4-17	03-451-8211
				自宅	1 4 3	大田区南馬込3-33-15	03-771-3939
"	"	野村 秋守	野村病院	医療法人	1 8 1	三鷹市下連雀8-3-6	0422-47-4848
				自宅	1 6 7	杉並区善福寺2-21-17	03-397-2026
神	奈川県	大野 松次	京浜総合病院	"	2 1 1	川崎市中原区新城200	044-777-3251
				自宅	1 6 6	杉並区高円寺北2-22-3	03-337-4495
"	"	平野 一彌	港北耳鼻咽喉科病院	個 人	2 2 2	横浜市港北区菊名7-1-11	045-421-8945
				自宅	"	"	045-421-8946
山	梨県	三宅 史郎	国立甲府病院	国 立	4 0 0	甲府市天神町11-35	0552-53-6131
				自宅	3 3 6	浦和市文蔵3-71-6	0488-61-9103
静	岡県	榎本 敏雄	静岡厚生病院	厚生連	4 2 0	静岡市北番町23	0542-71-7177
				自宅	"	" 安東1-19-21	0542-45-3970
"	"	細川 一郎	静岡赤十字病院	日 赤	4 2 0	静岡市追手町8-2	0542-54-4311
				自宅	"	" 大岩本町5-17	0542-45-3226
愛	知県	岡山 義雄	岡山病院	医療法人	4 6 0	名古屋市中区栄1-30-1	052-221-1851
				自宅	4 6 1	" 東区泉1-17-3 第2オレンジ久屋ビル8F-A	052-951-2420
大	阪府	有澤 源蔵	有澤総合病院	"	5 7 3	枚方市中宮東之町12-14	0720-47-2606
				自宅	"	" 大垣内町1-3-39	0720-43-8360
兵	庫県	北村 行彦	優生病院	個 人	6 6 0	尼崎市杭瀬大崩1	06-488-1851
				自宅	6 6 4	伊丹市鈴原町7-49-2	0727-81-1785
岡	山県	榊原 宏	榊原十全病院	医療法人	7 0 0	岡山市丸の内2-1-10	0862-25-1921
				自宅	"	" 北方3-7-41-1	0862-22-2084
事	岩手県	金子 保彦	岩手県立中央病院	都道府県	0 2 0	盛岡市本町通1-1-1	0196-53-1151
				自宅	"	" 天神町13-20	0196-24-4852
宮	城県	安田 久	石巻赤十字病院	日 赤	9 8 6	石巻市吉野町1-7-10	0225-95-4131
				自宅	"	" 泉町2-1-18	0225-22-0461

役職名	都府県道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
理事	秋田県	竹本吉夫	秋田赤十字病院	日赤 自宅	010	秋田市中通1-4-36 " 高陽青柳町14-2	0188-34 0188-24
"	山形県	長谷川 功	山形県立中央病院	都道府県 自宅	990	山形市桜町7-17 " 荒橋町1-19-8	0236-23 0236-31
"	"	安藤静男	山形市立病院済生館	市町村 自宅	990	山形市七日町1-3-26 " 緑町4-14-56	0236-22 0236-31
"	福島県	星 源之助	総合会津中央病院	医療法人 自宅	965	会津若松市一箕町大字鶴賀字 船ヶ森東181-1 " 日新町6-17	0242-25 0242-27
"	群馬県	真木 實	真木病院	" 自宅	370	高崎市筑縄町92-2 " 472-4	0273-61 0273-63
"	東京都	原 俊夫	公立昭和病院	市町村 自宅	187	小平市天神町2-450 " 2-11	0424-61 0424-62
"	"	小林 隆	日本赤十字社医療センター	日赤 自宅	150 171	渋谷区広尾4-1-22 豊島区南長崎6-6-12	03-400 03-951
"	"	高山 瑩	高山整形外科病院	医療法人 自宅	125 271	葛飾区金町3-4-5 松戸市中矢切488-28	03-607 0473-62
"	"	丸毛英二	東京慈恵会医科大学附属病院	学校法人 自宅	105 153	港区西新橋3-19-18 目黒区青葉台4-6-4	03-433 03-467
"	神奈川県	小野 肇	大口病院	医療法人 自宅	221 231	横浜市神奈川区大口通130 " 中区石川町2-78	045-401 045-641
"	新潟県	亀山宏平	中央総合病院	厚生連 自宅	940	長岡市福住2-1-5 " 柏町2-1-30	0258-35 0258-33
"	山梨県	中沢忠雄	加納岩病院	医療法人 自宅	405	山梨市上神内川1309 " 1229	05532-2 05532-2
"	長野県	小口源一郎	昭和伊南総合病院	市町村 自宅	399-41	駒ヶ根市赤穂2235-1 " 4145	02658-2 02658-3
"	"	相沢正樹	相沢病院	医療法人 自宅	390	松本市本庄2-5-1 " 大字神田880-1	0263-33 0263-26
"	岐阜県	山本直輝	岐阜県立岐阜病院	都道府県 自宅	500	岐阜市野一色町4-6-1 " 長良城西町2-23	0582-45 0582-31
"	"	藤掛 敏	藤掛第一病院	個人 自宅	500	岐阜市一番町1 "	0582-65 "
"	静岡県	長谷川 豊	静岡市立静岡病院	市町村 自宅	420	静岡市追手町10-93 " 上足洗1-8-25	0542-53 0542-45
"	愛知県	下村尚一	海南病院	厚生連 自宅	498	海部郡弥富町大字前ヶ須新田字 南本田396 海部郡弥富町大字鮎浦字中六町 85-5	05676-5 05676-5
"	"	太田元次	名古屋掖済会病院	公益法人 自宅	454 466	名古屋市中川区松年町4-66 " 昭和区御器所3-3-12	052-65 052-88
"	"	神谷喜作	臨港病院	" 自宅	455 464	名古屋市港区名港2-9-43 " 千種区猫洞通1-3	052-66 052-78
"	三重県	村田 清	伊勢市立伊勢総合病院	市町村 自宅	516	伊勢市楠部町316-2 " 中之町133	0596-23 0596-22
"	"	遠山 豪	遠山病院	医療法人 自宅	514	津市南新町17-22 " 新町1-2-36	0592-2 0592-2
"	大阪府	豊島正忠	大阪府済生会中津病院	済生会 自宅	530 565	大阪市北区芝田2-10-39 吹田市古江台1-20-10	06-37 06-87

名	都府道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
事	大阪府	二本杉	大阪赤十字病院	日赤 自宅	5 4 3 5 5 8	大阪市天王寺筆ヶ崎町 50 住吉区帝塚山中 2-8-15	06-771-5131 06-671-2306
	"	河崎	茂水間病院	医療法人 自宅	597-01 "	貝塚市水間 51 " 255	0724-46-1102 0724-46-1109
	"	田中	治東大阪病院	" 自宅	5 3 6 "	大阪市城東区中央 1-7-22 "	06-939-1121 "
	兵庫県	安東三郎	神戸市立西市民病院	市町村 自宅	6 5 3 6 5 8	神戸市長田区一番町 2-1-4 " 東灘区本山北町 4-7-59-1306	078-576-5251 078-452-7963
	"	白井潤	神戸掖済会病院	公益法人 自宅	6 5 1 6 6 0	神戸市生田区中山手通 6-91 尼崎市東七松町 1-9-18	078-341-7291 06-481-5669
	"	小原知次郎	小原病院	医療法人 自宅	6 5 2 "	神戸市兵庫区荒田町 1-9-19 " 1-11-1	078-521-1222 "
	"	平野明	共立会病院	" 自宅	6 7 5 "	加古川市米田町平津 596 " 629	0794-31-0234 0794-32-3549
	奈良県	南	溢秋津鴻池病院	" 自宅	639-22 "	御所市池之内 1064 " 大字柏原 1604	07456-2-2058 07456-2-2765
	和歌山県	遠藤香苗	和歌浦中央病院	" 自宅	6 4 1 6 4 2	和歌山市塩屋 6-2-70 海南市日方 1188	0734-44-1600 07348-2-8035
	"	中村了生	中村整形外科外科病院	" 自宅	6 4 0 "	和歌山市友田町 2-28 " 新内 217	0734-31-0351 0734-22-5138
	島根県	石倉愷	松江赤十字病院	日赤 自宅	6 9 0 "	松江市母衣町 200 " 灘町 40	0852-24-2111 0852-21-3250
	高知県	近藤慶二	高知県立中央病院	都道府県 自宅	7 8 0 "	高知市桜井町 2-7-33 " 愛宕山南町 4-37	0888-82-1211 0888-75-4220
	福岡県	鎌塚登喜郎	福岡赤十字病院	日赤 自宅	8 1 5 "	福岡市南区大楠 3-1-1 " 筑紫丘 2-18-26	092-521-1211 092-541-4401
	熊本県	三浦義一	済生会熊本病院	済生会 自宅	8 6 0 8 6 2	熊本市段山本町 4-38 " 水前寺公園 12-1	0963-54-9163 0963-84-0192
	長崎県	岩永光治	十善会病院	その他法人 自宅	8 5 0 8 5 2	長崎市籠町 7-18 " 平野町 21-9	0958-21-1214 0958-44-1934
事	神奈川県	太田清一	太田総合病院	医療法人 自宅	2 1 0 2 4 9	川崎市川崎区駅前本町 3-1 逗子市小坪 4-845-15 清風庵	044-244-0131 0468-73-3662
	茨城県	戸川潔	茨城県立中央病院	都道府県 自宅	309-17 311-41	西茨城郡友部町鯉湖 6528 水戸市河和田町東原 149-1	02967-7-1121 0292-52-6865
員 会 長	滋賀県	財津晃	長浜赤十字病院	日赤 自宅	5 2 6 "	長浜市宮前町 14-7 " 14-35	07496-3-2111 07496-2-2224
員 会 長	東京都	河井博	河井病院	個人 自宅	1 6 1 1 7 0	新宿区西落合 1-27-10 豊島区駒込 1-13-16	03-951-9116 03-945-6068

社団法人 **日本病院会顧問・参与名簿** (自昭和55年4月1日) (順不同)
至昭和58年3月31日

役職名	氏名	所 属	〒	連 絡 先	電 話
顧 問	神 崎 三 益	日本赤十字社 常任理事	1 0 5	東京都港区芝大門1-1-3	03-438-13
		武蔵野赤十字病院 名誉院長	1 8 0	〃 武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-31
		自宅	1 8 1	〃 三鷹市井口372	0422-31-43
〃	東 陽 一	中伊豆リハビリテーションセンター 顧問	410-25	静岡県田方郡中伊豆町冷川1523-108	05588-3-21
		自宅	4 1 2	〃 御殿場市東田中1705-1	0550-2-18
〃	阿久津 慎 名 鉄 病 院 院 長	院 長	4 5 1	愛知県名古屋市区西松前町3-45	052-551-61
		自宅	4 5 7	〃 南区霞町78	052-811-40
〃	左奈田 幸 夫	東海大学病院 教授	259-11	神奈川県伊勢原市望星台	0463-93-11
		自宅	1 5 5	東京都世田谷区代田4-10-16	03-328-08
〃	小野田 敏 郎	佼成病院 院長	1 6 4	東京都中野区弥生町5-25-15	03-383-12
		自宅	1 7 6	〃 練馬区中村南3-24	03-990-95
参 与	牛 場 大 蔵	日本医学教育学会 会長	1 1 3	東京都文京区本郷2-11-7 谷ロビル5F	03-814-35
		自宅	1 5 8	〃 世田谷区深沢4-34-15	03-702-80
〃	倉 田 正 一	慶応義塾大学病院 医学部 教授	1 6 0	東京都新宿区信濃町35	03-353-12
		自宅	1 5 4	〃 世田谷区駒沢1-14-23	03-421-30
〃	佐分利 輝 彦	厚生省病院管理研究所 所長	1 6 2	東京都新宿区戸山町1	03-203-53
		自宅	1 5 4	〃 世田谷区下馬6-41-7	03-418-58
〃	行 天 良 雄	NHK家庭部チーフ・ディレクター	1 5 0	東京都渋谷区神南2-3	03-465-11
		自宅	2 4 0	神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘188	045-331-29
〃	内 田 卿 子	(財)聖路加国際病院 総婦長	1 0 4	東京都中央区明石町10-1	03-541-51
		自宅	1 7 4	〃 板橋区志村1-34-7-1004	03-969-79

社団法人 日本病院会代議員名簿 (自昭和55年4月1日) (至昭和58年3月31日) (順不同)

職名	都道府県別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
議員	北海道	嘉戸 達也	浦河赤十字病院	日赤 自宅	057 "	浦河郡浦河町東町230 常盤町97	01462-2-5111 01462-2-2079
"	"	野田 潔	白石中央病院	医療法人 自宅	062 003	札幌市白石区平和通3丁目北12 本通4丁目北5-23	011-861-8171 011-861-9070
"	青森県	中村 登喜雄	中村整形外科病院	個人 自宅	037 "	五所川原市一ツ谷160 離田町141-14	01733-4-3315 01733-4-2243
"	岩手県	倉光 宏	北上済生会病院	済生会 自宅	024 020-01	北上市花園町1-6-8 盛岡市緑ヶ丘36-1	01976-4-7722 0196-61-9533
"	"	遠山 美和	遠山病院	医療法人 自宅	020 "	盛岡市下ノ橋町6-14 7-32	0196-51-2111 0196-22-5610
"	宮城県	丹野 三男	仙台市立病院	市町村 自宅	980 "	仙台市一番町4-6-1 広瀬町4-32	0222-25-7151 0222-22-8866
"	"	女川 浩	仙台赤十字病院	日赤 自宅	980 "	仙台市五橋2-12-2 八幡6-10-18	0222-27-1311 0222-34-5626
"	秋田県	峯木 照夫	秋田組合総合病院	厚生連 自宅	011 "	秋田市土崎港中央4-5-45 4-1-75	0188-45-0161 0188-45-2304
"	"	瀬戸 泰士	中通病院	医療法人 自宅	010 "	秋田市南通みその町3-15 亀の町9-15	0188-33-1122 0188-32-6992
"	山形県	桑島 治三郎	酒田市立酒田病院	市町村 自宅	998 "	酒田市千石町2-3-20 2-5-25	0234-23-1111 0234-22-1211
"	"	篠田 秀男	篠田総合病院	医療法人 自宅	990 "	山形市桜町2-68 香澄町1-20-11	0236-22-1711 0236-22-7964
"	福島県	本宿 尚	公立藤田総合病院	市町村 自宅	969-17 "	伊達郡国見町大字塚野目字三本木14 小坂字北窪51	02458-5-2121 02458-5-2767
"	"	渡辺 正光	渡辺内科胃腸科病院	医療法人 自宅	960 "	福島市北町1-40 腰浜町3-29	0245-22-9156 0245-34-9520
"	茨城県	三宅 和夫	県西総合病院	市町村 自宅	309-12 "	西茨城郡岩瀬町大字鍛田604 岩瀬316-1	02967-5-3171 02967-5-2318
"	"	丹野 清喜	水戸済生会総合病院	済生会 自宅	310 "	水戸市末広町1-1-8 見和2-251-10	0292-24-2121 0292-53-0666
"	"	会沢 孝	大洗海岸病院	医療法人 自宅	311-13 310	東茨城郡大洗町大貫町915 水戸市緑町1-1-6	02926-7-2191 0292-21-2349
"	"	鈴木 達也	水戸協同病院	厚生連 自宅	310 311-01	水戸市宮町3-2-7 那珂郡那珂町飯田2732-9	0292-31-2371 02929-8-2576
"	栃木県	斉藤 達郎	大田原赤十字病院	日赤 自宅	324 328	大田原市住吉町2-7-3 栃木市万町2-18	02872-3-1121 0282-22-0015
"	"	松本 清一	自治医科大学附属病院	学校法人 自宅	329-04 320	河内郡南河内町薬師寺3311-1 宇都宮市鶴田町1704-31	02854-4-2111 0286-48-3205
"	群馬県	長 洋	前橋赤十字病院	日赤 自宅	371 "	前橋市朝日町3-21-36 2-11-15	0272-24-4585 0272-24-7158
"	"	山崎 学	山崎病院	医療法人 自宅	370 "	高崎市上佐野町501 柳川町169	0273-22-5140 0273-26-7534
"	埼玉県	高木 紹夫	深谷赤十字病院	日赤 自宅	366 "	深谷市大字上野台856-1 797-1	0485-71-1511 0485-71-2634
"	"	井上 寿一	上福岡中央病院	個人 自宅	356 "	上福岡市上福岡1-14-7 花の木1-1-5	0492-62-3131 0492-64-1156
"	千葉県	小林 愿之	小見川中央病院	市町村 自宅	289-03 260	香取郡小見川町南原地新田438 千葉市西都賀3-10-18	04788-2-3161 0472-51-2594

役職名	都府県別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
代議員	千葉県	柏戸正英	柏戸病院	医療法人 自宅	280 "	千葉県長州2-21-8 " 2-21-16	0472-27-8 0472-22-3
"	東京都	原義雄	東京都立在原病院	都道府県 自宅	145 167	大田区東雪谷4-5-10 杉並区荻窪3-28-12	03-729-0 03-398-3
"	"	篠塚輝治	東京都立豊島病院	" 自宅	173 161	板橋区栄町33-1 新宿区西落合3-6-2	03-961-3 03-953-6
"	"	高橋政夫	大森赤十字病院	日 自宅	143 112	大田区中央4-30-11 文京区小石川5-24-21-406	03-775-3 03-811-7
"	"	織本正慶	織本病院	医療法人 自宅	180-04 177	清瀬市旭が丘1-261 練馬区東大泉3-38-10	0424-91-2 03-922-1
"	"	河井博	河井病院	個人 自宅	161 170	新宿区西落合1-27-10 豊島区駒込1-13-16	03-951-9 03-945-6
"	"	野村益朗	第一病院	" 自宅	125 "	葛飾区東金町4-2-10 " 4-2-3	03-607-0 "
"	"	前沢伯彦	東京前沢整形外科病院	" 自宅	166 "	杉並区阿佐谷南2-14-3 "	03-314-5 "
"	神奈川県	藤森一平	川崎市立川崎病院	市町村 自宅	210 153	川崎市川崎区新川通12-1 目黒区目黒4-20-27	044-233-5 03-711-7
"	"	大内正夫	済生会神奈川県病院	済生会 自宅	221 111	横浜市神奈川区富家町6-6 台東区柳橋2-13-7	045-432-1 03-851-1
"	"	熊田正春	日吉病院	個人 自宅	223 222	横浜市港北区日吉本町1966 " 菊名5-23-8	044-63-7 045-431-1
"	"	土屋章	洲野辺病院	医療法人 自宅	229 "	相模原市洲野辺3-2-8 "	0427-54-2 0427-52-5
"	新潟県	寺田一郎	水原郷病院	市町村 自宅	959-21 "	北蒲原郡水原町岡山町13-23 " 北本町3-13	02506-2-2 02506-2-2
"	"	桑名昭治	桑名病院	医療法人 自宅	950 951	新潟市古川町6-4 " 二葉町1-820	0252-73-2 0252-23-3
"	"	鈴木寛	新潟県立津川病院	都道府県 自宅	959-44 950-21	東蒲原郡津川町大字津川200 新潟市松美台15-35	02549-2-3 0252-67-6
"	富山県	越山健二	上市厚生病院	市町村 自宅	930-03 "	中新川郡上市町法音寺51 "	07647-2-1 07647-2-0
"	"	西能正一郎	西能病院	医療法人 自宅	930 "	富山市五福1130 " 末広長2576-8	0764-41-2 0764-32-3
"	石川県	道下忠蔵	石川県立高松病院	都道府県 自宅	929-12 920	河北郡高松町字内高松ヤ36 金沢市小立野2-14-23	0762-81-1 0762-31-7
"	"	神野正一	恵寿病院	医療法人 自宅	926 "	七尾市富岡町94 " 96	07675-2-3 07675-3-0
"	福井県	長田文男	福井赤十字病院	日 自宅	910 "	福井市月見2-4-1 "	0776-36-3 0776-36-0
"	"	藤沢正清	福井県済生会病院	済生会 自宅	910 "	福井市中央2-8-6 " 大宮2-10-5	0776-23-1 0776-21-2
"	山梨県	安田宏	大月市立中央病院	市町村 自宅	401 166	大月市大月町花咲1225 杉並区高円寺南3-19-7	05542-2-1 03-311-5
"	"	島津寿秀	甲州中央温泉病院	医療法人 自宅	406 400	東八千代郡石和町四日市場2031 甲府市中央2-10-8	05526-2-3 0552-35-5
"	"	飯田文良	山梨県立中央病院	都道府県 自宅	400 "	甲府市富士見1-1-1 甲府市美咲2-3-8	0552-53-7 0552-52-7

職名	都道府県道名	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
議員	長野県	友野 隆	諏訪赤十字病院	日赤	392	諏訪市小和田19-5	02665-2-6111
				自宅	"	" 湖岸通り4-7-12	02665-2-2109
"	"	関 守城	西 病 院	医療法人	390	松本市城西1-5-16	0263-33-6400
				自宅	"	" 蟻ヶ崎1-6-10	0263-32-1338
"	岐阜県	水川 勇	岐阜市民病院	市町村	500	岐阜市鹿島町7-1	0582-51-1101
				自宅	"	" 鍵屋東町3-16	0582-51-3472
"	"	山田実男	山 田 病 院	個人	505	美濃加茂市下米田町東朽井81	05742-5-3513
				自宅	"	"	"
"	静岡市	植田 一郎	沼津市立病院	市町村	410	沼津市三枚橋町9-1	0559-63-3230
				自宅	"	" 本字千本1906-1	0559-62-3695
"	"	中山耕作	総合病院聖隷浜松病院	その他法人	430	浜松市住吉2-12-12	0534-74-2222
				自宅	433	" 和合町154和合コーポ302号	0534-73-8737
"	"	後藤忠雄	静岡県立中央病院	都道府県	420	静岡市鷹匠3-6-1	0542-45-6111
				自宅	"	" 北安東4-1-20	0542-47-5636
"	滋賀県	財津 晃	長浜赤十字病院	日赤	526	長浜市宮前町14-7	07496-3-2111
				自宅	"	" 14-35	07496-2-2224
"	"	加藤 明	琵琶湖病院	医療法人	520-01	大津市坂本本町660	0775-78-2023
				自宅	"	"	0775-78-2024
"	愛知県	緒方正吾	豊橋市民病院	市町村	440	豊橋市松葉町3-1	0532-52-6311
				自宅	"	" 平川本町1-16-1	0532-63-2351
"	"	富永健二	名古屋第二赤十字病院	日赤	466	名古屋市昭和区妙見町2-9	052-832-1121
				自宅	465	" 名東区神丘町3-35	052-701-0360
"	"	伊藤 研	総合大雄会病院	医療法人	491	一宮市桜1-9-9	0586-72-1211
				自宅	"	" 東島町2-40	0586-73-6110
"	"	加藤 健三	九 朗 病 院	"	471	豊田市小坂町7-80	0565-32-0282
				自宅	"	" 本地町10-86	0565-32-0940
"	三重県	小山士郎	松阪市民病院	市町村	515	松阪市殿町1550	0598-23-1515
				自宅	514	津市上浜町6-224-24	0592-28-4937
"	"	田中矩夫	田 中 病 院	個人	519-01	龜山市西丸町539	05958-2-1335
				自宅	"	"	05958-2-0573
"	京都府	塩津徳晃	公立南丹病院	市町村	629-01	船井郡八木町大字八木小字上野25	07714-2-2510
				自宅	605	京都市東山区高台寺北門通下河原 東入鷲尾町503	075-561-0306
"	"	中野 進	京都四条病院	その他法人	600	京都市下京区東堀川四条下ル	075-361-5471
				自宅	603	" 北区衣笠西御所ノ内町16	075-462-9267
"	大阪府	上月景光	高槻赤十字病院	日赤	569	高槻市阿武野1-700	0726-96-0571
				自宅	613	京都市伏見区淀新町13	075-631-3539
"	"	西田茂樹	大阪府済生会野江病院	済生会	536	大阪市城東区中央2-11-18	06-932-0401
				自宅	573	枚方市香里ヶ丘12-5-23	0720-53-4522
"	"	大道 学	大道 病 院	医療法人	536	大阪市城東区東中浜1-3-17	06-967-7111
				自宅	659	芦屋市三条町218	0797-34-0126
"	"	杉本雄三	関西電力病院	その他私的	533	大阪市福島区福島2-1-7	06-458-5821
				自宅	535	" 旭区新森4-11-3	06-955-2988
"	"	加納繁美	総合加納病院	医療法人	531	大阪市淀川区天神橋7-5-26	06-351-5381
				自宅	662	西宮市霞町4-17	0798-36-6000
"	"	岸口 繁	府 中 病 院	"	594	和泉市肥子町1-10-17	0725-41-1646
				自宅	589	南河内郡狭山町大野台2-25-6	0723-66-6555

役職名	都府県道名	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
代議員	大阪府	中野博光	中野小児病院	医療法人 自宅	535 "	大阪市旭区新森4-13-17 4-21-7	06-952-4 06-955-3
"	兵庫県	岡田康男	姫路赤十字病院	日赤 自宅	670 671-01	姫路市龍野町5-30-1 "の形町の形725-1	0792-94-2 0792-54-0
"	"	依藤省三	済生会兵庫県病院	済生会 自宅	651 659	神戸市中央区日暮通5-5-17 芦屋市宮塚町18-4	078-251-8 0797-22-5
"	"	安田俊吉	広野高原病院	医療法人 自宅	673-02 650	神戸市垂水区押部谷町西盛566 "中央区中山手通1-25-9	078-994-1 078-221-2
"	"	元原利武	明舞中央病院	" 自宅	673 676	明石市松が丘4-1-32 高砂市阿弥陀町北地256	078-917-2 07944-7-10
"	"	多胡榑祐	城南多胡病院	" 自宅	670 "	姫路市本町15 "	0792-25-2 0792-88-3
"	奈良県	久米道雄	済生会奈良病院	済生会 自宅	630 "	奈良市杉ヶ町24 "法蓮山添町744	0742-22-6 0742-22-0
"	"	沢井陽一	沢井病院	公益法人 自宅	630 "	奈良市船橋町8 "法蓮町890	0742-23-3 0742-26-0
"	和歌山県	古田浩二	国保日高病院	市町村 自宅	644 649-12	御坊市蘭116-2 日高郡日高町荆木1223	07382-2-1 07386-3-2
"	"	内藤行雄	和歌山赤十字病院	日赤 自宅	640 641	和歌山市小松原通り4-1 "東小二里町6-5	0734-22-4 0734-45-2
"	"	瀬藤光仁	瀬藤病院	医療法人 自宅	640 "	和歌山市岡山町9 "西浜964-2	0734-24-3 0734-44-2
"	"	神保勝俊	宮本病院	" 自宅	641 "	和歌山市塩屋3-6-1 "和歌浦東2-1-62	0734-44-0 0734-44-0
"	"	月山和男	月山病院	個人 自宅	640 641	和歌山市小松原通り1-3 "新高町7-28	0734-23-2 0734-44-0
"	鳥取県	岩宮緑	鳥取県済生会境港病院	済生会 自宅	684 683	境港市米川町44 米子市立町1-56	08594-2-3 0859-22-3
"	"	野島鉄之助	野島病院	医療法人 自宅	682 "	倉吉市瀬崎町2714-1 "	08582-2-6 "
"	島根県	森本正紀	森本産婦人科病院	個人 自宅	690 "	松江市雑賀町82 "56	0852-25-2 0852-24-4
"	岡山県	大和人士	岡山済生会総合病院	済生会 自宅	700 "	岡山市伊福町1-17-18 "番町1-5-7	0862-52-2 0862-23-3
"	"	宮本祥郎	総合病院津山中央病院	公益法人 自宅	708 "	津山市二階町67 "田町47	08682-2-6 08682-2-4
"	"	木田恵三	新見中央病院	医療法人 自宅	718 "	新見市新見827-1 "	08677-2-2 08677-2-2
"	広島県	甲斐太郎	広島市民病院	市町村 自宅	730 "	広島市基町7-33 "中区白島九軒町24-7	0822-21-2 0822-21-7
"	"	岡田泰二	岡田病院	個人 自宅	734 "	広島市南区元字品町26-19 "26-41	0822-55-3 0822-51-5
"	山口県	吉富正一	総合病院山口赤十字病院	日赤 自宅	753 "	山口市八幡馬場53-1 "後河原33	08392-22-0 08392-22-0
"	"	村田寿太郎	村田博愛病院	医療法人 自宅	747 "	防府市三田尻1-1-24 "1-1-35	0835-22-2 0835-22-3
"	香川県	萱田静海	香川労災病院	その他公的 自宅	763 "	丸亀市城東町148 "3-3-3	08772-3-3 08772-2-6

職名	都府道別	氏名	病院名	経営主体	〒	住 所	電 話
議員	香川県	藤原 憲和	総合病院回生病院	医療法人 自宅	762	坂出市室町3-5-28 " " 花町1-32	08774-6-1011 08774-5-0120
"	愛媛県	土屋 定敏	総合病院松山赤十字病院	日 赤 自宅	790	松山市文京町1 " " 北持田町121	0899-24-1111 0899-47-0345
"	"	松尾 慎一郎	十全総合病院	公益法人 自宅	792	新居浜市北新町1-5 " " 中萩町13-64	0897-33-1818 0897-43-2167
"	徳島県	中西 修	中西整形外科病院	医療法人 自宅	770	徳島市中通町1-29-1 " "	0886-52-6147 0886-26-3822
"	高知県	飯塚 治	高知市立市民病院	市町村 自宅	780	高知市丸ノ内1-7-45 " " 福井町2235-28	0888-22-6111 0888-72-7476
"	"	岡村 一雄	岡村病院	医療法人 自宅	780	高知市入明町1-5 " " 大川筋2-7-3	0888-22-5155 0888-25-2626
"	福岡県	兵働 貞夫	浜の町病院	その他公的 自宅	810	福岡市中央区舞鶴3-5-27 " " 梅光園2-8-3	092-721-0831 092-731-3001
"	"	井手 一郎	聖マリア病院	医療法人 自宅	830	久留米市津福本町422 " "	0942-35-3322 0942-33-8030
"	"	原 安彦	香椎原病院	"	813	福岡市東区香椎1102 " "	092-662-1333 092-671-5631
"	"	弓削 静彦	大牟田市立病院	市町村 自宅	836	大牟田市不知火町3-3 " " 浄真町71	09445-3-1061 09445-3-5281
"	"	土屋 呂武	済生会福岡総合病院	済生会 自宅	810	福岡市中央区天神1-3-46 " " 博多区中洲5-1-19	092-771-8151 092-291-1253
"	佐賀県	鶴丸 廣長	佐賀県立病院好生館	都道府県 自宅	840	佐賀市水ヶ江1-12-9 " " 4-1-27	0952-24-2171 0952-23-4347
"	"	山口 弾之至	誠会病院	医療法人 自宅	840	佐賀市田代2-7-24 " "	0952-24-5325 "
"	長崎県	福井 順	福井病院	"	851-03	長崎市深堀町1-11-54 " " 江川町448-7	0958-71-1515 0958-78-3512
"	"	富永 雄幸	佐世保中央病院	"	857	佐世保市戸尾町4-5 " " 白南風町23-3	0956-22-7151 0956-22-7969
"	沖縄県	比嘉 實	沖縄赤十字病院	日 赤 自宅	902 900	那覇市古波蔵113 " " 松山35-6	0988-53-3134 0988-68-7380

社団法人 日本病院会委員会委員名簿

自 昭和55年4月1日
至 昭和56年3月31日

1. 医療制度委員会

小西宏	委員長	神奈川県立こども医療センター	神奈川県	045-711-2351
渡辺茂夫	委員	国立熱海病院	東京都	03-999-0287(自)
佐分利輝彦	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03-203-5327
井上昌彦	委員	北里大学	東京都	03-444-6161
津田豊和	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03-203-5327
尾崎恭輔	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
左奈田幸夫	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
行天良雄	委員	日本放送協会	東京都	03-465-1111
諸橋芳夫	委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
紀伊國献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-2111
小野肇	委員	大口病院	神奈川県	045-401-3861
青木康子	委員	都立大塚看護専門学校	東京都	03-947-5061
矢野正子	委員	都立神経病院	東京都	0423-23-5111
荒井蝶子	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391

2. 社会保険委員会

諸橋芳夫	委員長	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	0285-44-2111
大野松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
小笠原道夫	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
尾口平吉	委員	全国自治体病院協議会	東京都	03-261-8555
落合勝一郎	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
北村行彦	委員	優生病院	兵庫県	06-448-1851
黒田幸男	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03-451-8211
高橋政夫	委員	大森赤十字病院	東京都	03-775-3111
吉崎芳雄	委員	厚生連	東京都	03-279-0311
有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606

3. 医療経済委員会

有澤源藏	委員長	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
遠山豪	委員	遠山病院	三重県	0592-27-6171
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
土屋章	委員	渕野辺病院	神奈川県	0427-54-2222
蘭部雅一	委員	兵庫医科大学	兵庫県	0798-45-6500
酒泉春雄	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
星源孝	委員	会津中央病院	福島県	0242-25-1515
深瀬邦雄	委員	日比谷病院	東京都	03-502-7231
森久雄	委員	森会計事務所	東京都	03-970-2127
伊藤寛	委員	伊藤会計事務所	愛知県	052-541-0166

4. 病院管理委員会

野村秋守	委員長	野村病院	東京都	0422-47-4848
北村行彦	副委員長	優生病院	兵庫県	06-488-1851
榊原宏	副委員長	榊原十全病院	岡山県	0862-25-1921
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
池谷亘	委員	巖市立病院	埼玉県	0484-32-2277
榎本敏雄	委員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
菱山博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031

5. 教育委員会

村田勇	委員長	富山県立中央病院	富山県	0764-24-1531
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03-972-8111
榊原宏	委員	榊原十全病院	岡山県	0862-25-1921
三宅浩之	委員	関東通信病院	東京都	03-448-6537
菱山博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031
川北祐幸	委員	順天堂医院	東京都	03-813-3111
落合勝一郎	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391

内田 卿子	委 員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
吉武 香代子	委 員	千葉大学看護学部	千葉県	0472-22-7171
土井 正	委 員	山田総合病院	東京都	03-962-5051

6. 臨床予防医学委員会

堀内 光	委員長	東京都済生会中央病院	東京都	03-451-8211
樫田 良精	副委員長	関東中央病院	東京都	03-429-1171
水野 近	副委員長	三井健康保険組合	東京都	03-243-1401
安藤 幸夫	委 員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
飯田 晶	委 員	東芝中央病院	東京都	03-764-0511
宇津 典彦	委 員	久留米大学付属病院	福岡県	0942-35-3311
小関 忠尚	委 員	京都第二赤十字病院	京都府	075-231-5171
金沢 鉄男	委 員	青森県立中央病院	青森県	0177-23-3311
清瀬 闊	委 員	三井記念病院	東京都	03-862-9111
笹森 典雄	委 員	牧田総合病院	東京都	03-762-4671
鈴木 豊明	委 員	東京警察病院	東京都	03-263-1371
高橋 春雄	委 員	愛知県総合保健センター	愛知県	052-962-5371
田中 剛二	委 員	東京都済生会中央病院	東京都	03-451-8211
丹野 三男	委 員	仙台市立病院	宮城県	0222-25-7151
寺田 由紀夫	委 員	大阪赤十字病院	大阪府	06-771-5131
日野原 重明	委 員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
藤間 弘行	委 員	藤間病院	埼玉県	0485-22-0600
松岡 研	委 員	P L 病院	大阪府	07212-4-3100
三木 徹	委 員	丸山病院	兵庫県	078-642-1031
榎本 敏雄	委 員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177

7. 通信教育委員会

高橋 政祺	委員長	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
田中 敏行	副委員長	大阪通信病院	大阪府	06-771-0545
犬塚 貞光	委 員	福岡大学病院	福岡県	092-801-1011
大町 文子	委 員	元日本パプテスト病院	京都府	075-701-8016

落合勝一郎	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
笠井良一	委員	元日本バプテスト病院	京都府	075-701-8016
栗田静枝	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
酒井隆子	委員	京都市立病院	京都府	075-311-5311
竹村喬	委員	大阪大学医療技術短期大学	大阪府	06-451-0051
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	0285-44-2111

8. 学術委員会

渡辺進	委員長	成田赤十字病院	千葉県	0476-22-2311
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	0285-44-2111
北原哲夫	副委員長	東京通信病院	東京都	03-261-8211
秋山博	委員	済生会川口総合病院	埼玉県	0482-53-1551
鎌田利雄	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-7730
沢田光正	委員	佼成病院	東京都	03-383-1281
高橋政祺	委員	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03-972-8111
三宅浩之	委員	関東通信病院	東京都	03-448-6537
山本修	委員	都立看護専門学校	東京都	03-941-9321

9. 広報委員会

高山瑩	委員長	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
浅見信子	委員	蒲田総合病院	東京都	03-738-8221
宇井美代子	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
江本俊秀	委員	東海病院	東京都	03-999-1131
大塚暢	委員	聖隷浜松病院	静岡県	0534-74-2222
川北祐幸	委員	順天堂医院	東京都	03-813-3111
岸口繁	委員	府中病院	大阪府	0725-41-1646
後藤直昭	委員	船橋中央病院	千葉県	0474-33-2111
嶋崎佐智子	委員	東京警察病院	東京都	03-263-1371
平和夫	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03-451-8211
行天良雄	相談役	日本放送協会	東京都	03-465-1111

10. 情報センター委員会

細川一郎	委員長	静岡赤十字病院	静岡県	0542-54-4311
三宅浩之	副委員長	関東逦信病院	東京都	03-448-6537
青木禧和	委員	町田病院	東京都	0427-91-3555
池田博	委員	東京慈恵会医科大学	東京都	03-433-1111
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
岡田行雄	委員	電々公社データ通信本部	東京都	03-509-5600
土井義行	委員	舞子台病院	兵庫県	078-782-0055
水野精巳	委員	豊洲厚生病院	東京都	03-533-6611
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03-972-8111

11. 国際委員会

河野稔	委員長	北品川総合病院	東京都	03-474-1831
高橋勝三	委員	武蔵野赤十字病院	東京都	0422-32-3111
国重信彦	委員	佼成病院	東京都	03-383-1281
紀伊國献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-3067
関武矩	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
久保文苗	委員	日本医薬情報センター	東京都	03-406-1811
岩佐隆義	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-1351

12. 病院倫理綱領特別委員会

吉岡観八	委員長	新千里病院	大阪府	06-871-0121
渡辺進	委員	成田赤十字病院	千葉県	0476-22-2311
遠山豪	委員	遠山病院	三重県	0592-27-6171
大野松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
渡辺茂夫	委員	国立熱海病院	静岡県	0557-81-9171
行天良雄	委員	日本放送協会	東京都	03-465-1111

会 員 状 況

	昭和55年4月1日現在	昭和56年3月31日現在	増 減
正 会 員	1,787	1,775	-12
特 別 会 員	0	0	0
賛 助 会 員 A	139	132	- 7
" B	108	112	+ 4
" C	16	15	- 1
" D	95	103	+ 8
計	2,145	2,137	- 8